

## 第5章 仮説と仮説に対する検証

### 1. 課題の原因と考えられる仮説

○第2章で触れた2つの課題の原因を、「生徒・学生」、「学校」、「企業」の3者に分けて細分化すると、以下のような仮説が考えられる。

下表右列の「生徒」は生徒・学生に関するもの、「学校」は学校に関するもの、「企業」は企業に関するものを意味する。

①	周囲のすすめや、なんとなくといった理由で普通科高校への進学を希望する中学生が多い	生徒
②	周囲のすすめや、なんとなくといった理由で文系の大学への進学を希望する高校生が多い	生徒
③	自分に合った仕事が見つからない（自己分析が不十分）	生徒
④	生徒に、自己分析や社会人に必要な能力を向上させるための学びや、社会や産業の理解を促す機会の提供が十分にできていない	学校
⑤	生徒に、職場見学やインターンシップ等、業務内容等について知ることのできる機会の提供を十分にできていない	学校
⑥	高卒就職希望者に県内企業の御有無内容などの詳細が十分に知られていない	企業
⑦	仕事をするまでに生徒が身に付けたい能力、学校が生徒に身に付けさせたい能力、県内企業が高卒新入社員に身に付けておいてほしい能力の3者にギャップがある	生徒 学校 企業
⑧	なんとなく進学を希望したり、就職活動を行ったりしている生徒が多い（将来への意識が乏しく就業観が未発達）	生徒
⑨	「学校」から「社会」への急激な変化についていけない（「生徒」から「社会人」への準備不足）	生徒
⑩	就業意識の変化（転職市場の活性化）	生徒
⑪	就職者が思っていたより就業環境が良くない場合がある（人間関係、給与、福利厚生など）	企業
⑫	生徒の希望が多い業種・職種について採用が少ない（事務職等）	企業
⑬	生徒の地元企業の認知度が低い	企業
⑭	高卒者と大卒の待遇（給与、職種）の違いを理由とした離職がある	企業
⑮	就職者が相談できる場所がない	企業

## 2. 仮説検証

---

○以下では、前項で掲げた仮説について、アンケート調査結果やインタビュー調査結果などを用いて、仮説毎に検証していく。

仮説①	周囲のすすめや、なんとなくといった理由で普通科高校への進学を希望する中学生が多い
-----	--

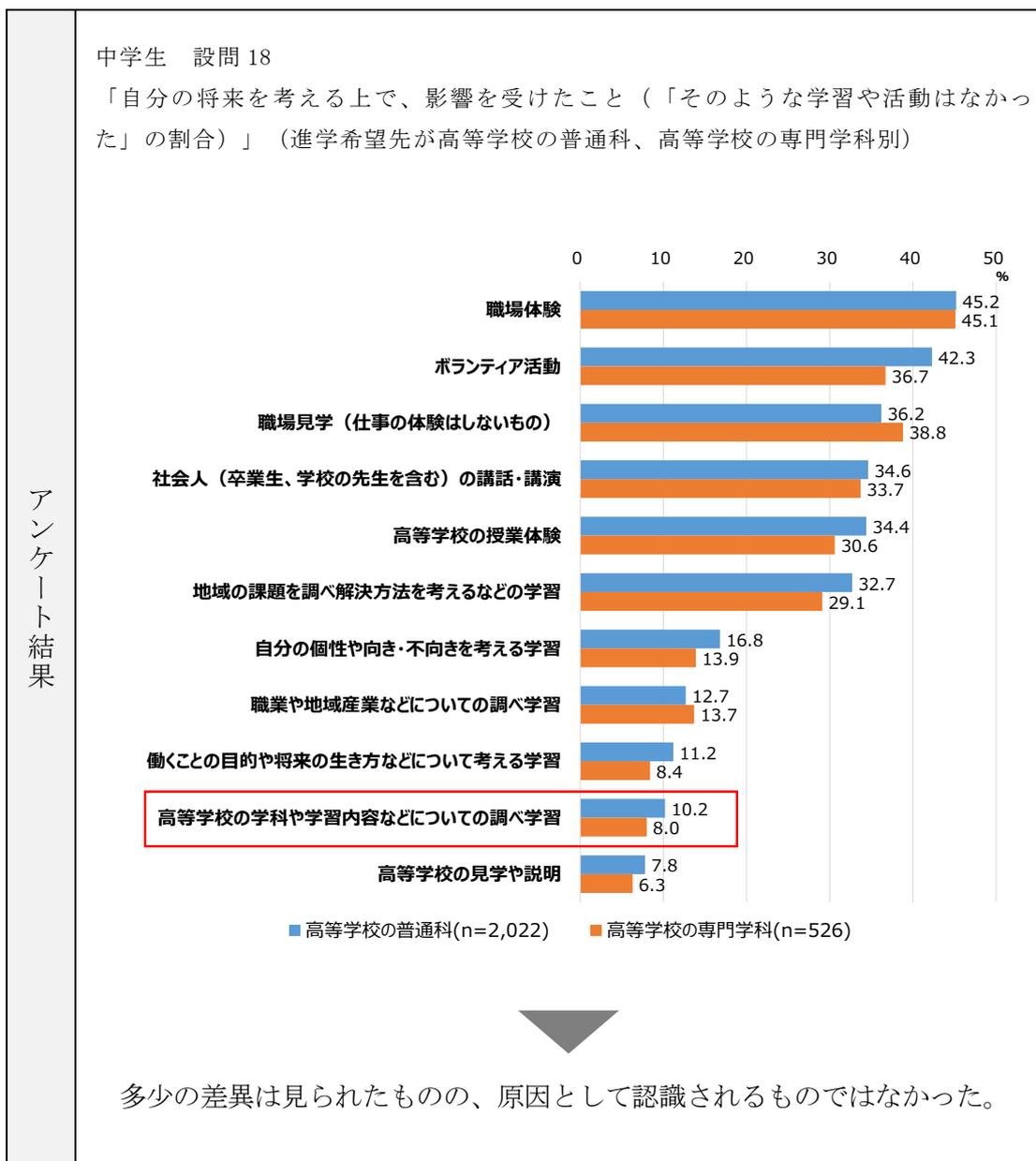
検証結果①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学理由としては、普通科進学を目指す生徒は「上級学校に進学したいから」が最も多く、専門学科を目指す生徒は「将来役立つ知識・技能や資格を取得したいから」が最も多かった</li> <li>・進学理由として、周囲のすすめや「なんとなく」と回答した割合は、専門学科に進学意向のある生徒に比べ、普通科に進学意向のある生徒の方が高かった</li> </ul>
-------	---

アンケート結果	<p>中学生 設問7「上級学校・その学科への進学を希望する理由」 (普通科に進学意向のある生徒と専門学科に進学意向のある生徒)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>理由</th> <th>普通科(n=3,182)</th> <th>専門学科(n=972)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>好きな勉強ができそうだから</td> <td>19.2</td> <td>43.4</td> </tr> <tr> <td>大学、短期大学、専門学校等に進学したいから</td> <td>45.2</td> <td>31.0</td> </tr> <tr> <td>自分の学力に合っているから</td> <td>37.8</td> <td>27.7</td> </tr> <tr> <td>将来の職業に役立つ知識・技能や資格が得られそうだから</td> <td>30.1</td> <td>55.5</td> </tr> <tr> <td>将来の目標を見つけられそうだから</td> <td>38.1</td> <td>45.3</td> </tr> <tr> <td>保護者や家族がすすめるから</td> <td>26.1</td> <td>20.4</td> </tr> <tr> <td>学校の先生がすすめるから</td> <td>5.2</td> <td>4.3</td> </tr> <tr> <td>塾や家庭教師の先生などがすすめるから</td> <td>10.7</td> <td>5.2</td> </tr> <tr> <td>友人や先輩がすすめるから</td> <td>7.0</td> <td>3.9</td> </tr> <tr> <td>したい部活動ができそうだから</td> <td>31.4</td> <td>30.7</td> </tr> <tr> <td>特に理由なく、なんとなく進学したい</td> <td>6.8</td> <td>2.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ 高等学校の普通科(n=3,182) ■ 高等学校の専門学科(n=972)</p> <p>普通科に進学希望及び専門学科に進学希望の特徴は以下の通り。      &lt;普通科に進学希望&gt;      ・大学などの上級学校への進学を見据えており、学力に合った学校を選ぶ傾向が相対的に高い。      ・進学については他者（保護者や塾、友人など）からの影響が相対的に高い。      ・理由なく進学も相対的に高い。      &lt;専門学科に進学希望&gt;      ・高校に対し、自分が勉強したいことや将来を見据えた資格・知識習得を目的として学校を選ぶ傾向が相対的に高い。</p>	理由	普通科(n=3,182)	専門学科(n=972)	好きな勉強ができそうだから	19.2	43.4	大学、短期大学、専門学校等に進学したいから	45.2	31.0	自分の学力に合っているから	37.8	27.7	将来の職業に役立つ知識・技能や資格が得られそうだから	30.1	55.5	将来の目標を見つけられそうだから	38.1	45.3	保護者や家族がすすめるから	26.1	20.4	学校の先生がすすめるから	5.2	4.3	塾や家庭教師の先生などがすすめるから	10.7	5.2	友人や先輩がすすめるから	7.0	3.9	したい部活動ができそうだから	31.4	30.7	特に理由なく、なんとなく進学したい	6.8	2.8
理由	普通科(n=3,182)	専門学科(n=972)																																			
好きな勉強ができそうだから	19.2	43.4																																			
大学、短期大学、専門学校等に進学したいから	45.2	31.0																																			
自分の学力に合っているから	37.8	27.7																																			
将来の職業に役立つ知識・技能や資格が得られそうだから	30.1	55.5																																			
将来の目標を見つけられそうだから	38.1	45.3																																			
保護者や家族がすすめるから	26.1	20.4																																			
学校の先生がすすめるから	5.2	4.3																																			
塾や家庭教師の先生などがすすめるから	10.7	5.2																																			
友人や先輩がすすめるから	7.0	3.9																																			
したい部活動ができそうだから	31.4	30.7																																			
特に理由なく、なんとなく進学したい	6.8	2.8																																			

## <仮説①の原因分析>

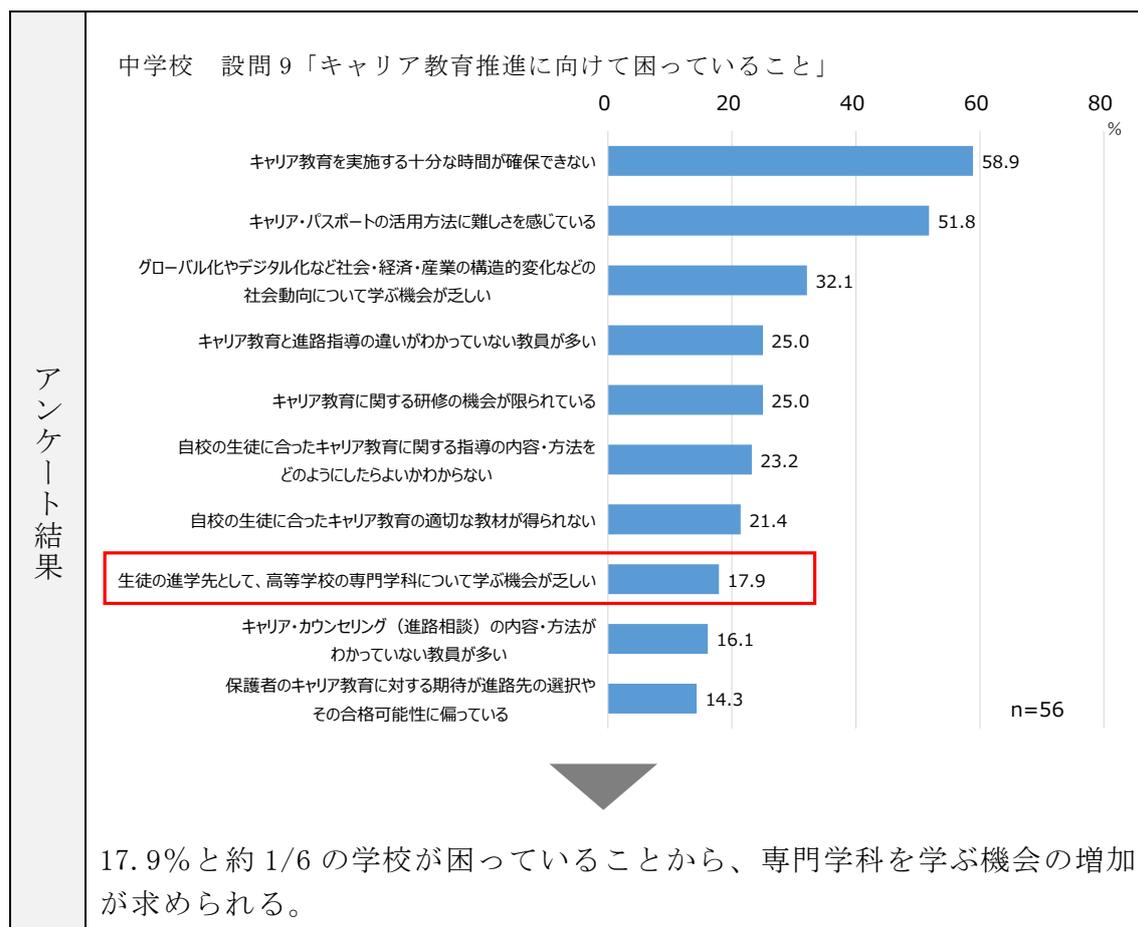
### A. 「普通科以外の高校の学習内容を理解する機会が少ない」

仮説①の原因分析として、「普通科以外の高校の学習内容を理解する機会が少ない」という点を検証したが、中学生向けアンケート調査結果では、「高等学校の学科や学習内容などについての調べ学習の多寡」について、「普通科」と「専門学科」との間で、大きな差は見られなかった。



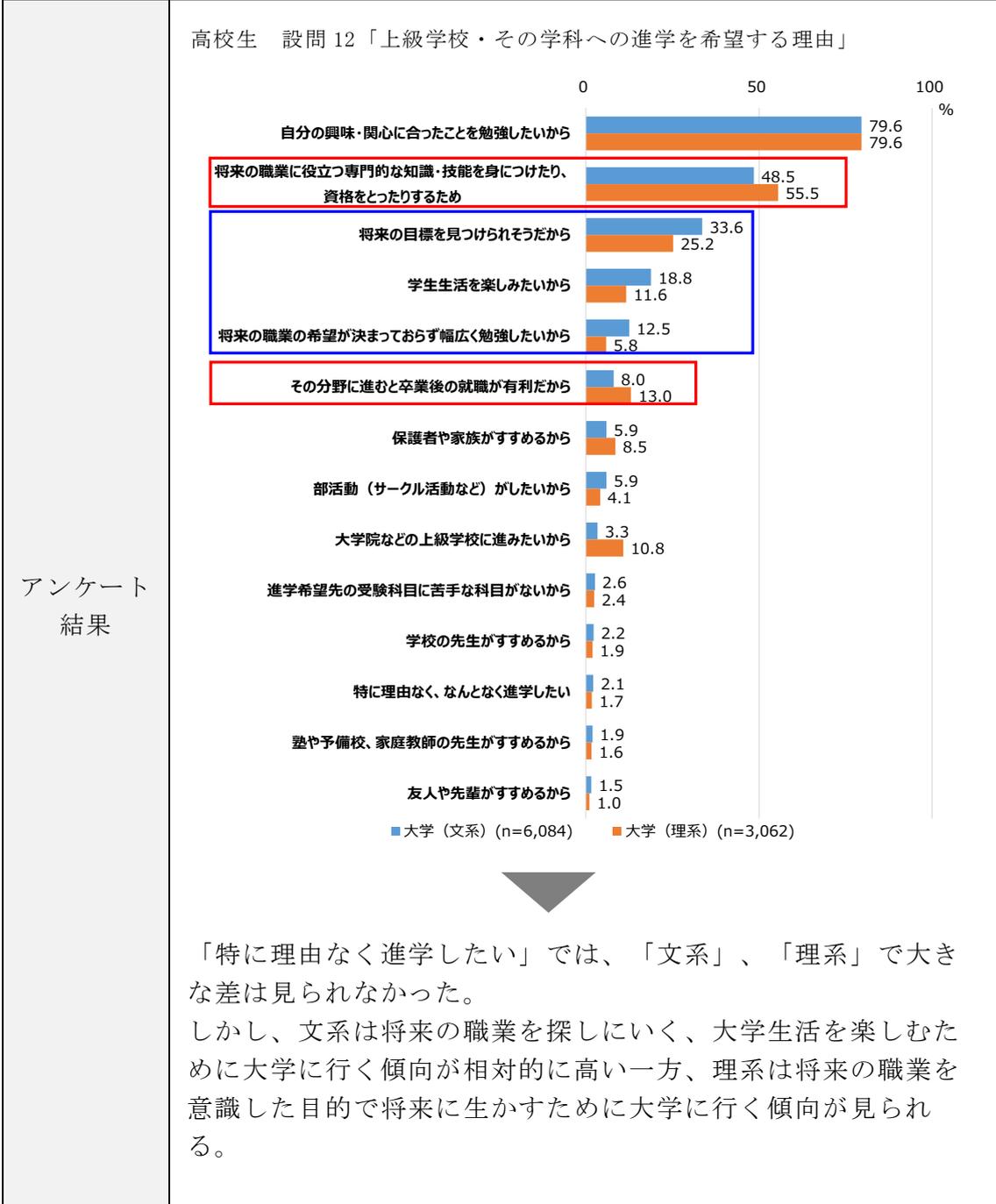
## B. 中学校教員の高校専門学科に対する知識が十分ではない

仮説①の原因分析として、さらに「中学校教員の高校専門学科に対する知識が十分ではない」という点を検証したが、中学校向け調査結果で、「生徒の進学先として、高等学校の専門学科について学ぶ機会が乏しい」という回答が 17.9%（全体の約 1/6）に上り、中学校教員の高校専門学科に対する知識が十分ではないことが確認された。



仮説②	周囲のすすめや、なんとなくといった理由で文系の大学への進学を希望する高校生が多い
-----	--

検証結果②	・周囲のすすめやなんとなくといった理由については、文系志望者と理系志望者で大きな差はなかったが、文系では将来の目標を探す目的や大学生活を楽しむ目的で進学したいと回答した高校生の比率が理系志望者よりもやや高かった
-------	---



仮説③	自分に合った仕事が見つからない（自己分析が不十分）
-----	---------------------------

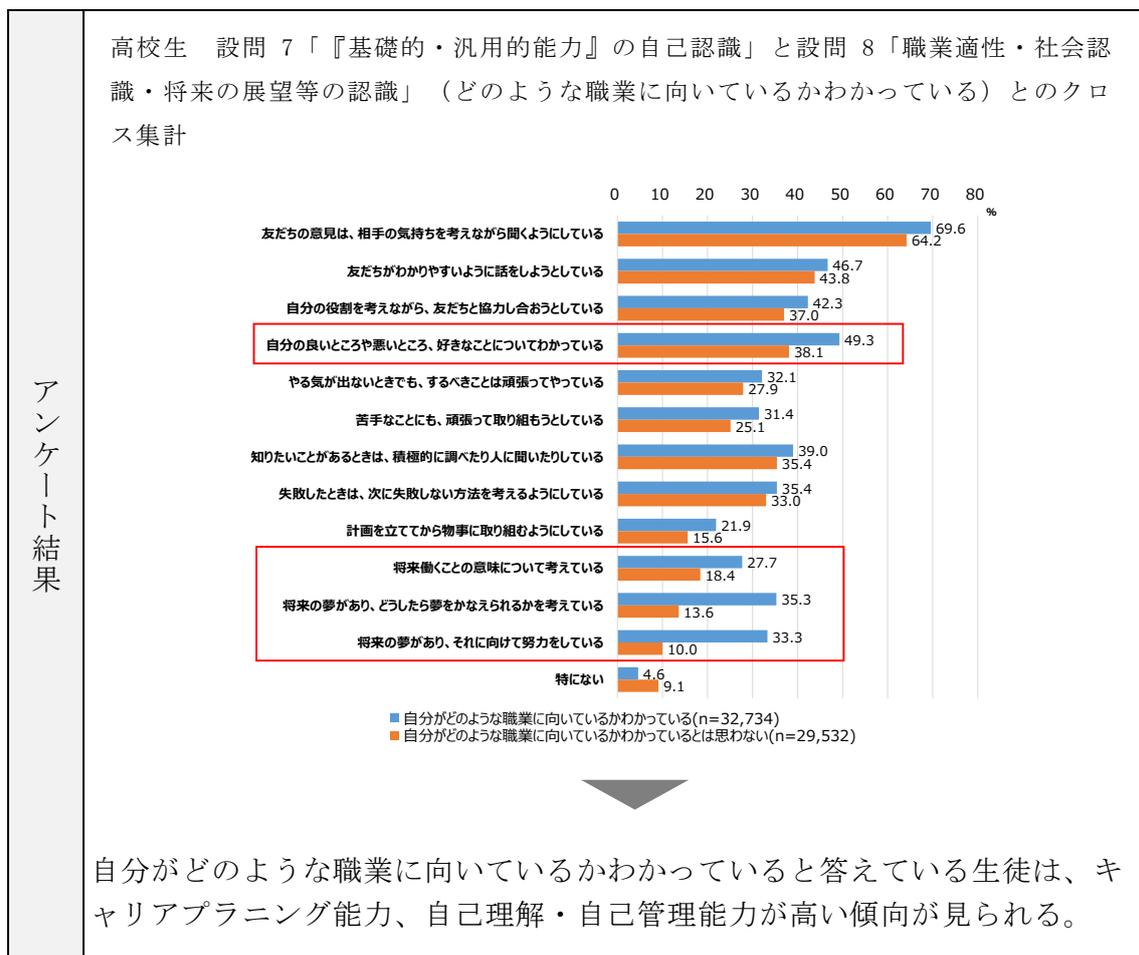
検証結果③	<p>・「自分がどのような職業に向いているかわかっている」に「そう思う」と回答した高校生の割合は15.4%にとどまり、また、就業を希望する上で困っていることとして「やりたい仕事が見つからない」、「自分がどのような職業に向いているのか見つからない」が上位にランクされるなど、生徒自身が就きたい仕事を理解していない傾向が見られる</p>
-------	--

アンケート結果	<p>高校生 設問 8 「職業適性・社会認識・将来の展望等の認識」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>そう思う</th> <th>まあそう思う</th> <th>あまりそう思わない</th> <th>そう思わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者や家族とよく会話をする</td> <td>58.7</td> <td>29.6</td> <td>9.2</td> <td>2.6</td> </tr> <tr> <td>感じたことなどを自分なりの言葉で表すことを心がけている</td> <td>24.8</td> <td>49.8</td> <td>20.9</td> <td>4.5</td> </tr> <tr> <td>将来、充実した人生を送ることができると思う</td> <td>17.3</td> <td>43.6</td> <td>30.4</td> <td>8.6</td> </tr> <tr> <td>身近な社会問題の解決に役立ちたいと考えている</td> <td>16.0</td> <td>44.4</td> <td>29.9</td> <td>9.7</td> </tr> <tr> <td><b>自分がどのような職業に向いているかわかっている</b></td> <td><b>15.4</b></td> <td><b>37.2</b></td> <td><b>34.1</b></td> <td><b>13.3</b></td> </tr> <tr> <td>将来、社会で成功して人に認められるようになると思う</td> <td>12.9</td> <td>35.6</td> <td>39.8</td> <td>11.6</td> </tr> <tr> <td>自分が社会とつながっていると感じる</td> <td>10.7</td> <td>34.2</td> <td>42.7</td> <td>12.4</td> </tr> <tr> <td>学校の勉強は得意な方である</td> <td>6.9</td> <td>26.0</td> <td>44.4</td> <td>22.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>n=62,266</p>	項目	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	保護者や家族とよく会話をする	58.7	29.6	9.2	2.6	感じたことなどを自分なりの言葉で表すことを心がけている	24.8	49.8	20.9	4.5	将来、充実した人生を送ることができると思う	17.3	43.6	30.4	8.6	身近な社会問題の解決に役立ちたいと考えている	16.0	44.4	29.9	9.7	<b>自分がどのような職業に向いているかわかっている</b>	<b>15.4</b>	<b>37.2</b>	<b>34.1</b>	<b>13.3</b>	将来、社会で成功して人に認められるようになると思う	12.9	35.6	39.8	11.6	自分が社会とつながっていると感じる	10.7	34.2	42.7	12.4	学校の勉強は得意な方である	6.9	26.0	44.4	22.6
	項目	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない																																									
保護者や家族とよく会話をする	58.7	29.6	9.2	2.6																																										
感じたことなどを自分なりの言葉で表すことを心がけている	24.8	49.8	20.9	4.5																																										
将来、充実した人生を送ることができると思う	17.3	43.6	30.4	8.6																																										
身近な社会問題の解決に役立ちたいと考えている	16.0	44.4	29.9	9.7																																										
<b>自分がどのような職業に向いているかわかっている</b>	<b>15.4</b>	<b>37.2</b>	<b>34.1</b>	<b>13.3</b>																																										
将来、社会で成功して人に認められるようになると思う	12.9	35.6	39.8	11.6																																										
自分が社会とつながっていると感じる	10.7	34.2	42.7	12.4																																										
学校の勉強は得意な方である	6.9	26.0	44.4	22.6																																										
<p>高校生 設問 11 「就業を希望するうえで困っていること」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><b>やりたい仕事が見つからない</b></td> <td><b>32.1</b></td> </tr> <tr> <td><b>自分がどのような職業に向いているのか見つからない</b></td> <td><b>26.0</b></td> </tr> <tr> <td>就職先でまわりの人とうまくやっていく自信がない</td> <td>18.1</td> </tr> <tr> <td>求人票を見ても、具体的な仕事イメージできない</td> <td>14.6</td> </tr> <tr> <td>友人と離れ離れになってしまう</td> <td>8.2</td> </tr> <tr> <td>やりたい仕事があるが、その就職先がない</td> <td>6.9</td> </tr> <tr> <td>まわりの人が進学するので話が合わない</td> <td>6.4</td> </tr> <tr> <td>地元で希望する就職先がない</td> <td>4.7</td> </tr> <tr> <td>就職のため家を出て生活をしなければならぬ</td> <td>4.4</td> </tr> <tr> <td>親身になって相談にのってくれる人がいない</td> <td>2.7</td> </tr> <tr> <td>保護者や先生と意見が合わない</td> <td>2.7</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>特に困ったり悩んだりしていることはない</td> <td>31.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>n=6,500</p> <p>「自分がどのような職業に向いているかわかっている」に「そう思う」と回答した高校生の割合は15.4%にとどまり、また、就業を希望する上で困っていることとして「やりたい仕事が見つからない」、「自分がどのような職業に向いているのか見つからない」が上位にランクされるなど、生徒自身が就きたい仕事を理解していない傾向が見られる。</p>	項目	割合	<b>やりたい仕事が見つからない</b>	<b>32.1</b>	<b>自分がどのような職業に向いているのか見つからない</b>	<b>26.0</b>	就職先でまわりの人とうまくやっていく自信がない	18.1	求人票を見ても、具体的な仕事イメージできない	14.6	友人と離れ離れになってしまう	8.2	やりたい仕事があるが、その就職先がない	6.9	まわりの人が進学するので話が合わない	6.4	地元で希望する就職先がない	4.7	就職のため家を出て生活をしなければならぬ	4.4	親身になって相談にのってくれる人がいない	2.7	保護者や先生と意見が合わない	2.7	その他	1.3	特に困ったり悩んだりしていることはない	31.2																		
項目	割合																																													
<b>やりたい仕事が見つからない</b>	<b>32.1</b>																																													
<b>自分がどのような職業に向いているのか見つからない</b>	<b>26.0</b>																																													
就職先でまわりの人とうまくやっていく自信がない	18.1																																													
求人票を見ても、具体的な仕事イメージできない	14.6																																													
友人と離れ離れになってしまう	8.2																																													
やりたい仕事があるが、その就職先がない	6.9																																													
まわりの人が進学するので話が合わない	6.4																																													
地元で希望する就職先がない	4.7																																													
就職のため家を出て生活をしなければならぬ	4.4																																													
親身になって相談にのってくれる人がいない	2.7																																													
保護者や先生と意見が合わない	2.7																																													
その他	1.3																																													
特に困ったり悩んだりしていることはない	31.2																																													

## <仮説③の原因分析>

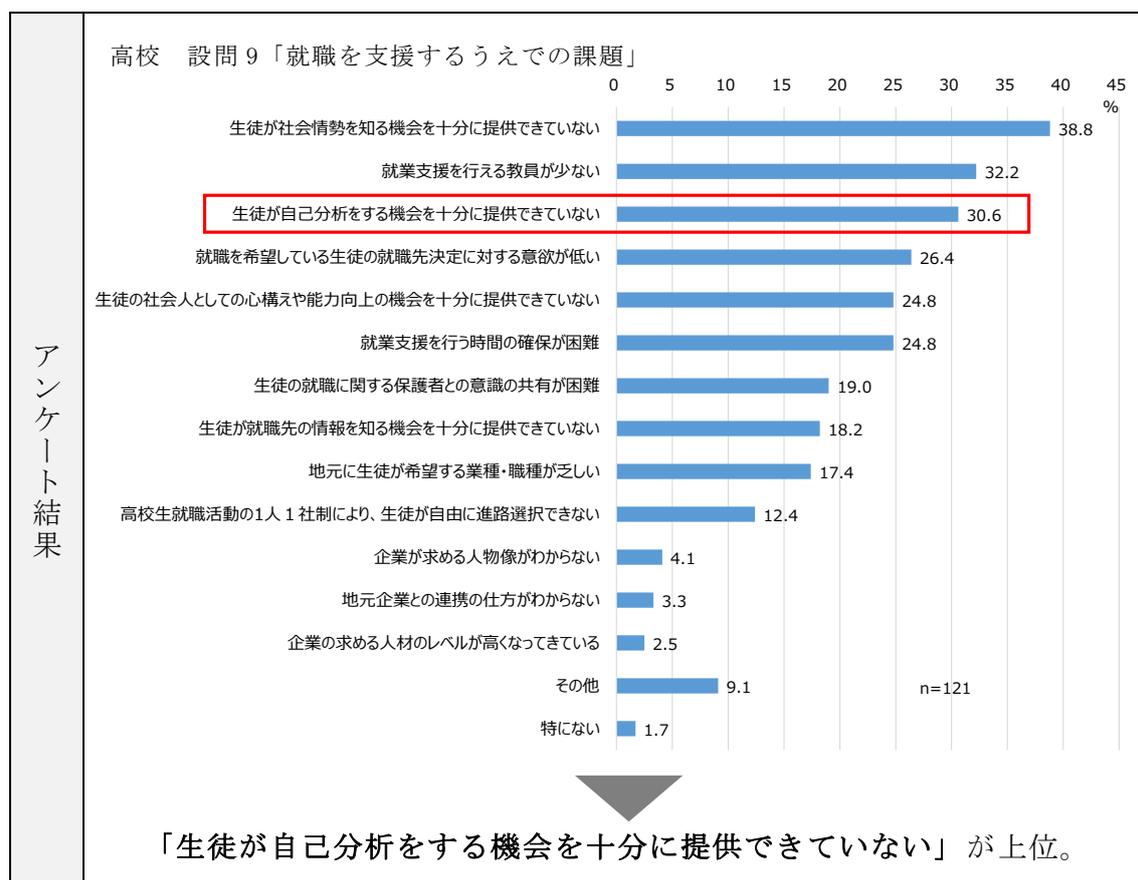
### A. 「基礎的・汎用的能力」の未発達

仮説③の原因分析として、高校生向けアンケート調査において、「『基礎的・汎用的能力』の自己認識」と「職業適性・社会認識・将来の展望等の認識」（どのような職業に向いているかわかっている）とのクロス集計を行ったところ、最多の「友だちの意見は、相手の気持ちを考えながら聞くようにしている」をはじめ、全ての設問で、自分がどのような職業に向いているかわかっていると答えた生徒の方が、相対的に自己理解・自己管理能力やキャリアプランニング能力が高い傾向が見られる。



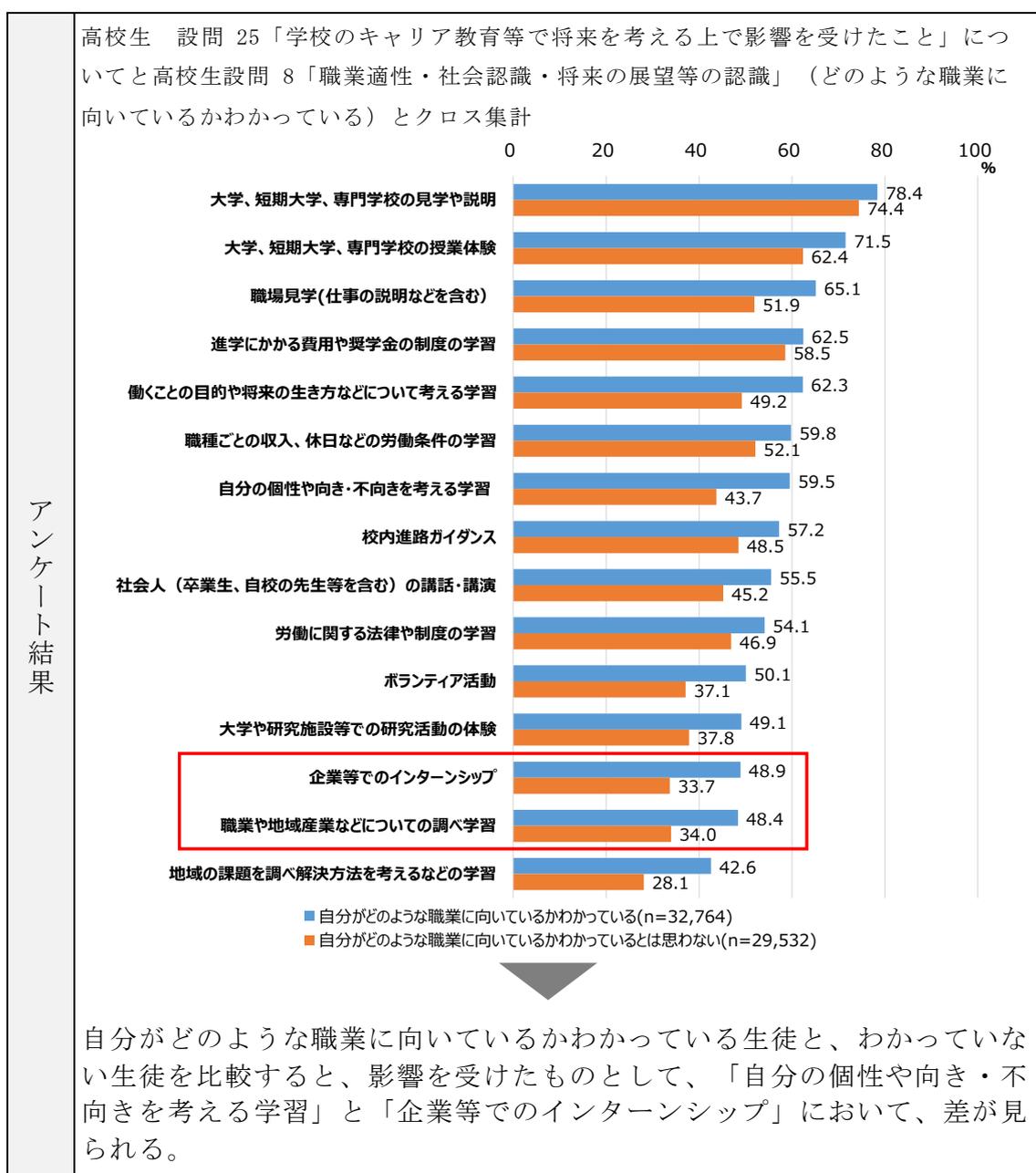
## B. 自己分析の機会の提供不足

仮説③の原因分析として、さらに「自己分析の機会の提供不足」という点を検証したが、高校向け調査結果で、就職を支援するうえでの課題として、「生徒が社会情勢を知る機会を十分に提供できていない」が最多になったほか、「生徒が自己分析をする機会を十分に提供できていない」という回答が全体の3割に上った。



### C. 職業を知る機会の活用が不十分

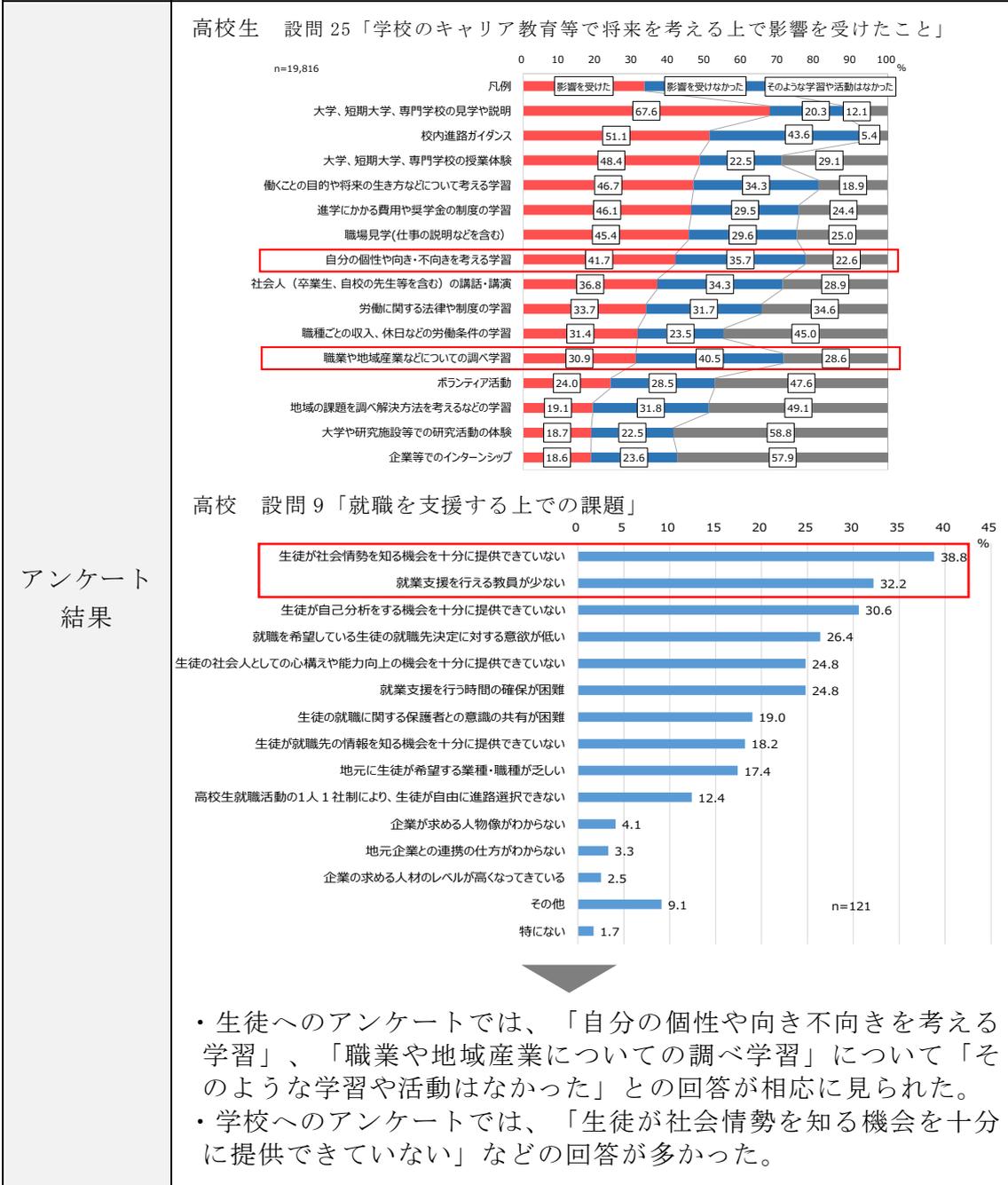
仮説③の原因分析として、加えて「職業を知る機会の活用が不十分」という点を検証したが、高校生向け調査結果で、「学校のキャリア教育等で将来を考える上で影響を受けたこと」と「職業適性・社会認識・将来の展望等の認識」とをクロス集計したところ、上位の「上級学校の見学や説明、授業体験」をはじめ全ての設問で、自分がどのような職業に向いているかわかっている生徒の方がわかっている生徒に比べて、影響を受けたとの回答が多かった。「自分の個性や向き・不向きを考える学習」と「企業等でのインターンシップ」でも、職業適性がわかっている生徒とわかっている生徒との間で大きな回答差が見られた。



仮説④ 生徒に、自己分析や社会人に必要な能力を向上させるための学びや、社会や産業の理解を促す機会の提供が十分にできていない

検証結果④

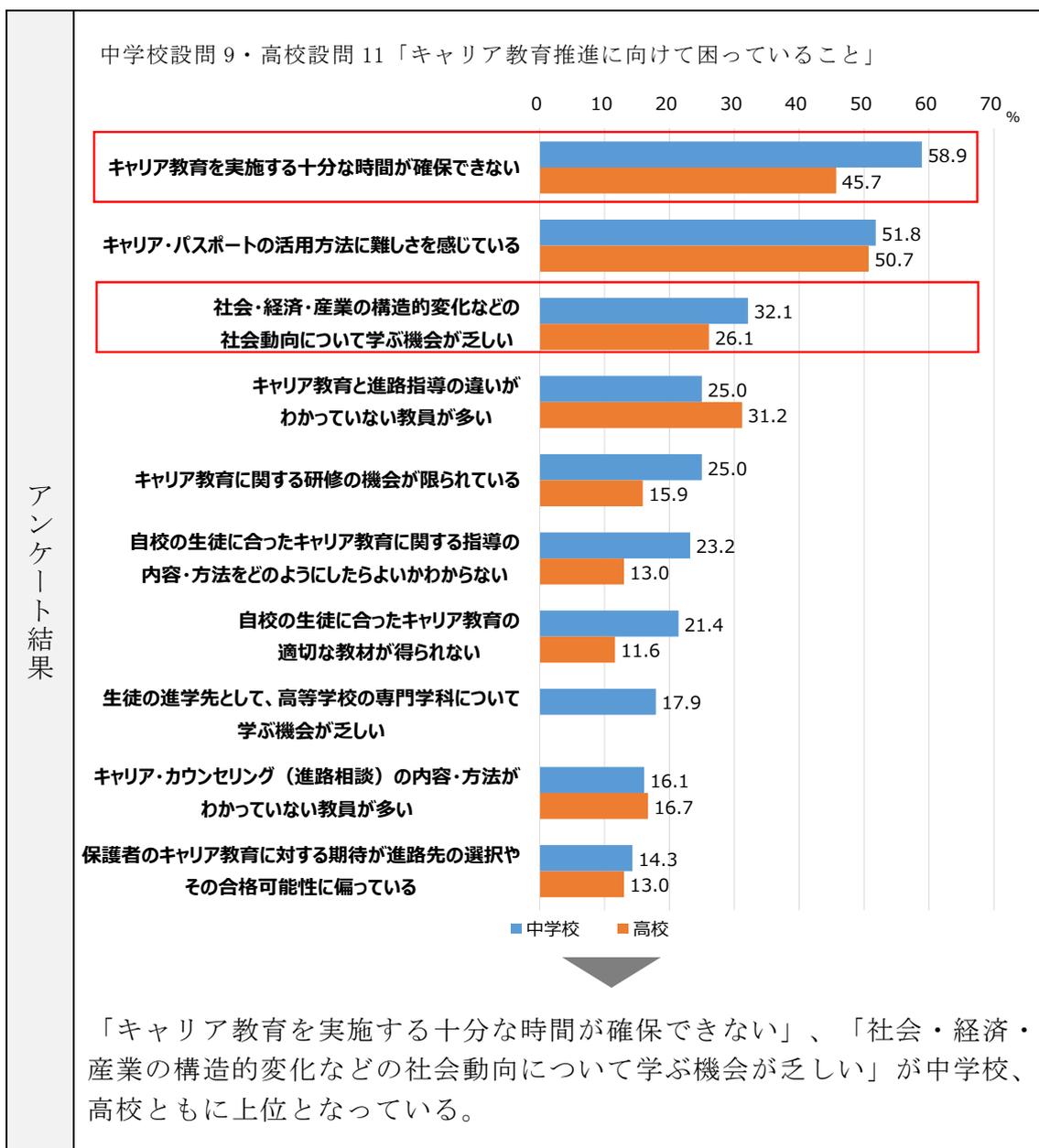
- ・生徒へのアンケートでは、「自分の個性や向き不向きを考える学習」、「職業や地域産業についての調べ学習」について「そのような学習や活動はなかった」との回答が相応に見られた
- ・学校へのアンケートでは、「生徒が社会情勢を知る機会を十分に提供できていない」などの回答が多かった



<仮説④の原因分析>

キャリア教育実施の時間の確保が難しい、教員が社会動向を学ぶ機会が乏しい

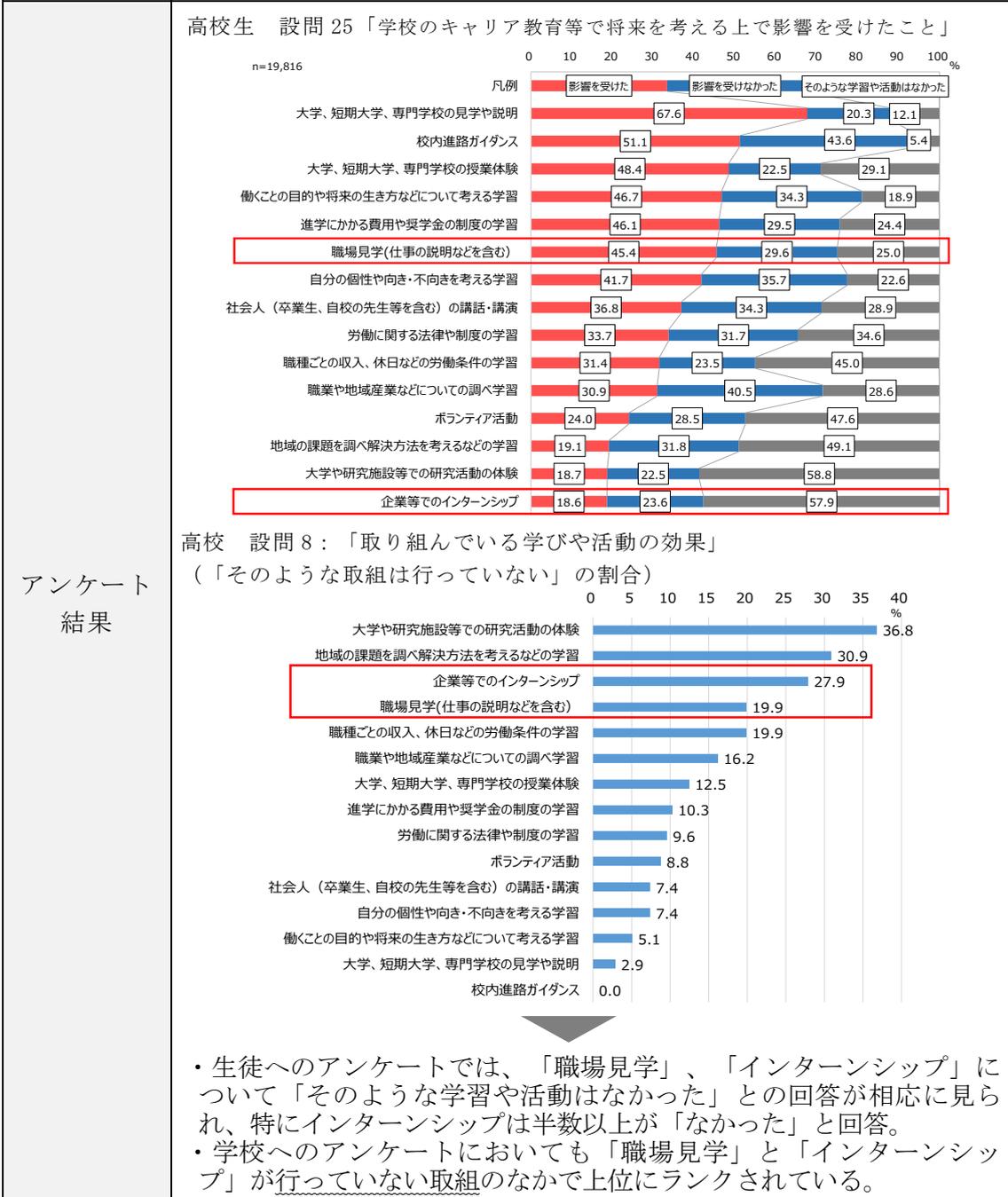
仮説④の原因分析として、「キャリア教育を実施する十分な時間が確保できない」、「社会・経済・産業の構造的変化などの社会動向について学ぶ機会が乏しい」の回答が中学校、高校ともに上位となっている。



仮説⑤ 生徒に、職場見学やインターンシップ等、業務内容等について知ることのできる機会の提供を十分にできていない

検証結果⑤

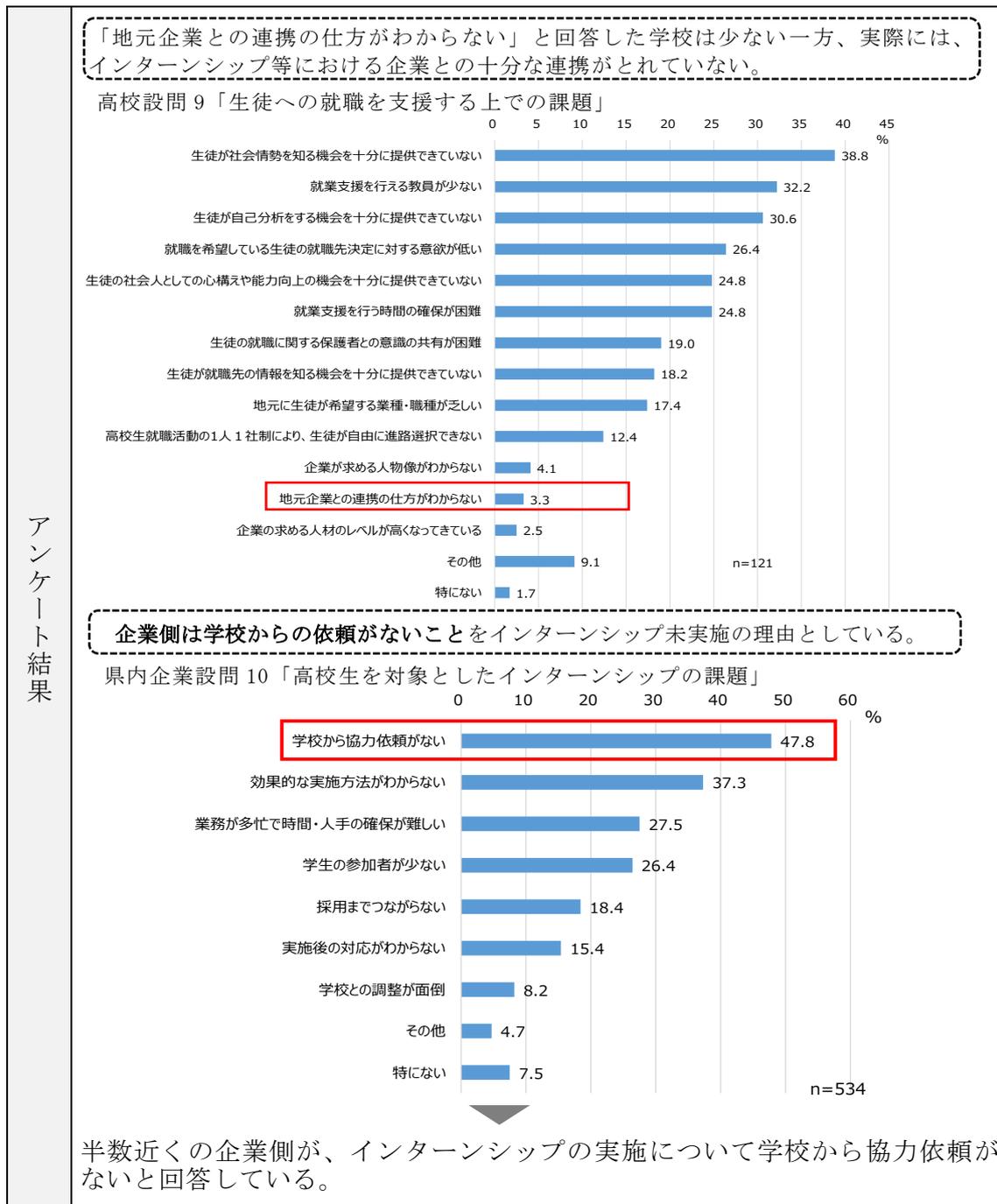
- ・高校生へのアンケートでは、「職場見学」、「インターンシップ」について「そのような学習や活動はなかった」との回答が相応に見られ、特にインターンシップは半数以上が「なかった」と回答
- ・学校へのアンケートにおいても「職場見学」と「インターンシップ」が行っていない取組のなかで上位にランクされている



## <仮説⑤の原因分析>

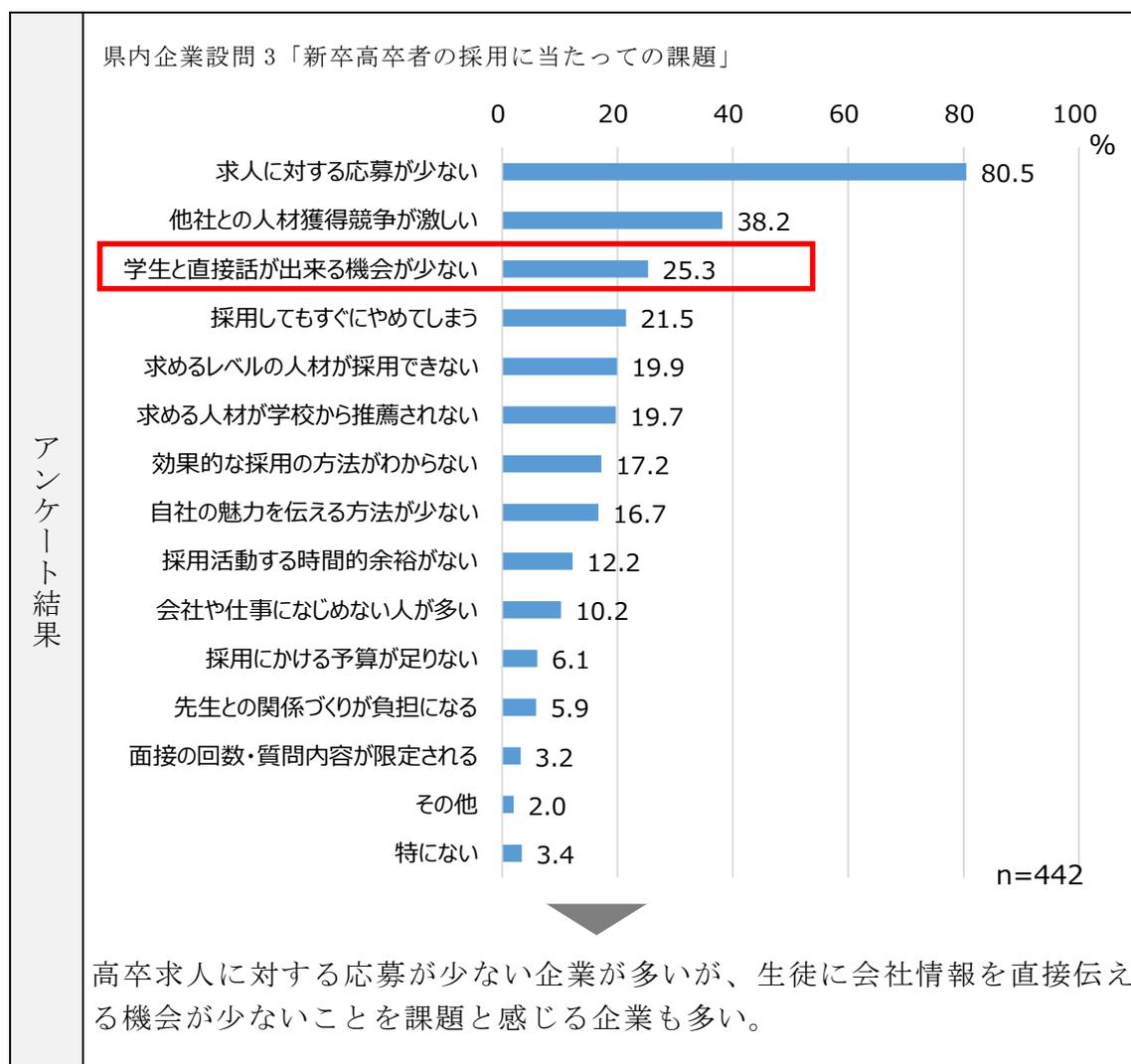
### A. 学校側と地元企業の連携が十分に図れていない

仮説⑤の原因として、学校側と地元企業の連携が十分に図れていないことが挙げられる。高校へのアンケートでは、「地元企業との連携の方法がわからない」の回答は少なかったが、実際にインターンシップ等を行う学校は少ないほか、県内企業向けアンケートでは「学校からの依頼がない」の回答が最上位となった。



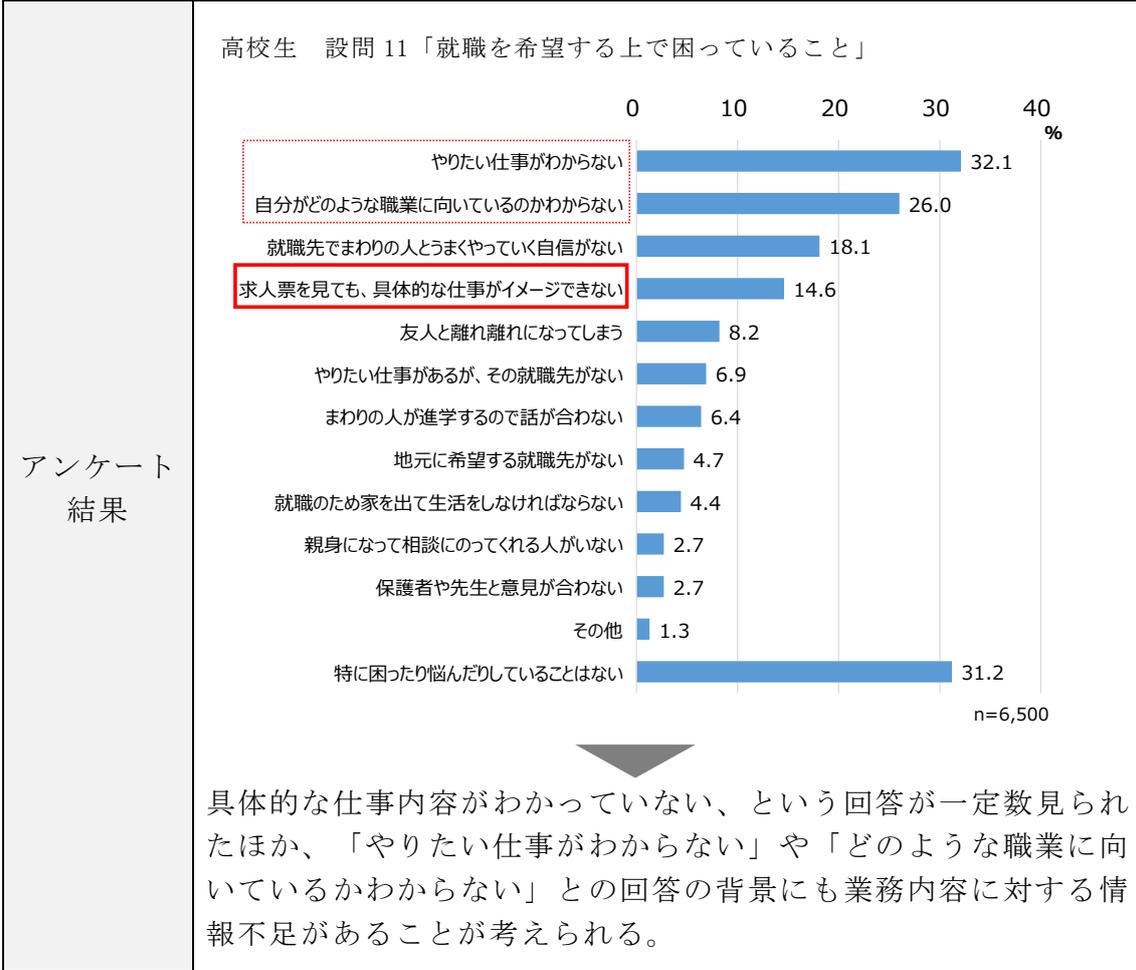
## B. 生徒に会社情報を直接伝える機会が少ない

また、県内企業向けアンケートでは、「学生と直接話ができる機会が少ない」が上位となった。企業インタビューからは、「当社としては是非ともインターンシップを受け入れたいが、当社から動こうにも何をすれば良いか分からないのが実情」といった声が中小企業を中心に聞かれた。



仮説⑥	高卒就職希望者に県内企業の業務内容などの詳細が十分に知られていない
-----	-----------------------------------

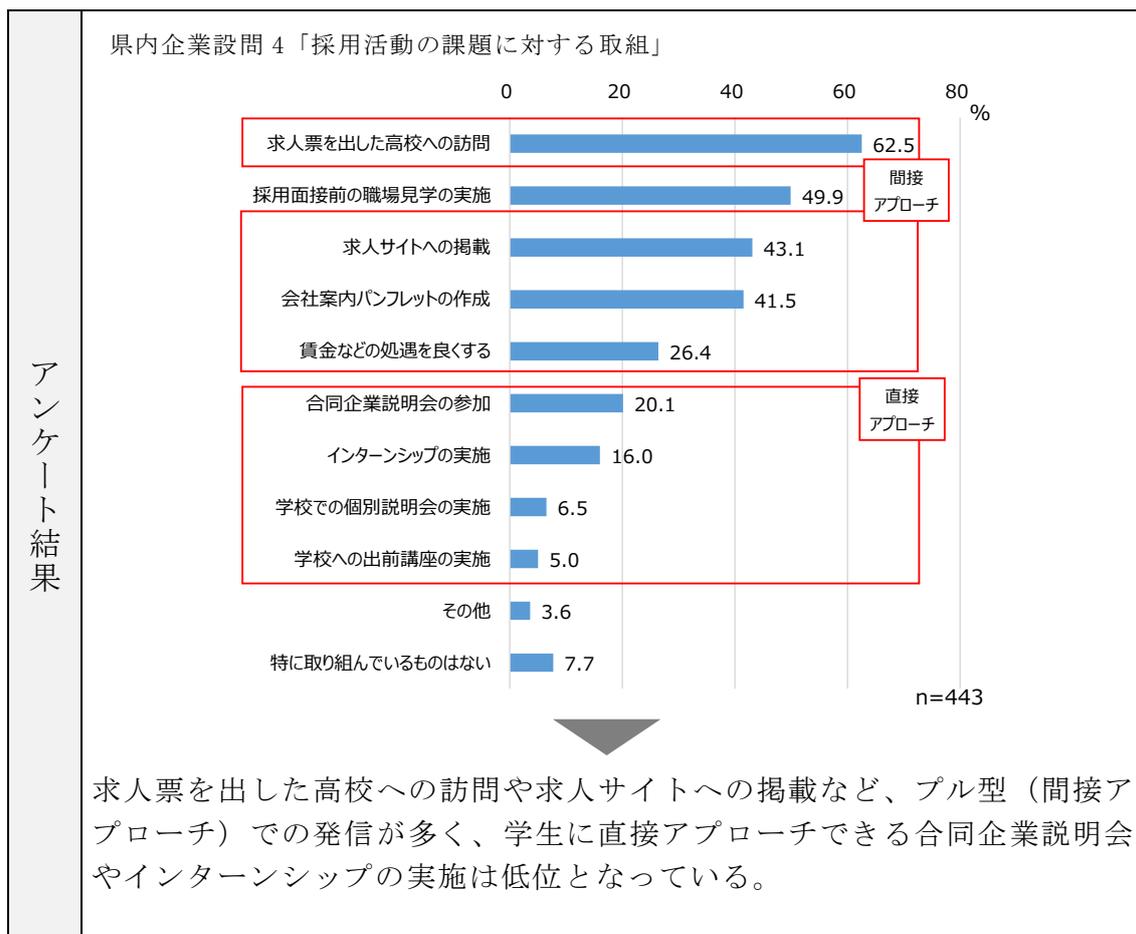
検証結果⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「やりたい仕事かわからない」生徒や「どのような職業に向いているかわからない」高校生が多いが、「求人票を見ても具体的な仕事がイメージできない」と回答する生徒も相応にいる</li> </ul>
-------	--



## ＜仮説⑥の原因分析＞

### 企業側の高卒就職希望者に対する直接的なアプローチが少ない

仮説⑤の原因の一つとして、企業側の高卒就職希望者に対する直接的なアプローチが少ないことが挙げられる。県内企業向けアンケートによると、「求人票を出した学校への訪問」など間接（プル型）アプローチを行っている企業が多く、「合同企業説明会」や「インターンシップ」など直接（プッシュ型）アプローチを行っている企業は少ないことが判明。



<生徒・学校・企業共通>

仮説⑦	仕事をするまでに生徒が身に付けたい能力、学校が生徒に身に付けさせたい能力、県内企業が高卒新入社員に身に付けておいてほしい能力の3者にギャップがある
-----	---

検証結果⑦	<p>・3者すべて、「一般常識」や「コミュニケーション能力」は1位、2位となっており、仕事をするまでに求める能力については大きなずれは認められなかった。これには、日本が欧州等（ジョブ型）と違ってメンバーシップ型雇用社会で、入社にあたって具体的な条件があいまいなままジェネラリストとして働き続けるという企業の慣行が背景にある可能性がある。</p>
-------	--

アンケート結果	<p>高校生設問 24「仕事をするまでに身に付けておきたい力」          高校 設問 10「生徒たちが身に付けておくべき力」          県内企業設問 6「高卒新入社員に身に付けておいてほしいこと」          （高校3・4年生（就職希望）、高校、県内企業）</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>高校3・4年生 (就職希望のみ)</th> <th>高校</th> <th>県内企業 (高卒採用)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1位</td> <td>一般常識</td> <td>コミュニケーション能力</td> <td>一般常識</td> </tr> <tr> <td>2位</td> <td>コミュニケーション能力</td> <td>一般常識</td> <td>コミュニケーション能力</td> </tr> <tr> <td>3位</td> <td>状況の変化に柔軟に対応する能力</td> <td>基礎的な知識や学力</td> <td>基礎的体力</td> </tr> <tr> <td>4位</td> <td>基礎的体力</td> <td>状況の変化に柔軟に対応する能力</td> <td>新しい知識・経験・学力を身に付けようとする意欲</td> </tr> <tr> <td>5位</td> <td>基礎的な知識や学力</td> <td>情報を収集、選択、活用する能力</td> <td>状況の変化に柔軟に対応する能力</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">▼</p> <p>3者すべて、「一般常識」や「コミュニケーション能力」は1位、2位となっており、求める能力については大きなずれは認められなかった。          ※高校は生徒に身に付けてほしい能力として聞いているため、就業意向の生徒だけでなく進学意向の生徒を含めたものとなっている。</p>		高校3・4年生 (就職希望のみ)	高校	県内企業 (高卒採用)	1位	一般常識	コミュニケーション能力	一般常識	2位	コミュニケーション能力	一般常識	コミュニケーション能力	3位	状況の変化に柔軟に対応する能力	基礎的な知識や学力	基礎的体力	4位	基礎的体力	状況の変化に柔軟に対応する能力	新しい知識・経験・学力を身に付けようとする意欲	5位	基礎的な知識や学力	情報を収集、選択、活用する能力	状況の変化に柔軟に対応する能力
	高校3・4年生 (就職希望のみ)	高校	県内企業 (高卒採用)																						
1位	一般常識	コミュニケーション能力	一般常識																						
2位	コミュニケーション能力	一般常識	コミュニケーション能力																						
3位	状況の変化に柔軟に対応する能力	基礎的な知識や学力	基礎的体力																						
4位	基礎的体力	状況の変化に柔軟に対応する能力	新しい知識・経験・学力を身に付けようとする意欲																						
5位	基礎的な知識や学力	情報を収集、選択、活用する能力	状況の変化に柔軟に対応する能力																						

仮説⑧	なんとなく進学を希望したり、就職活動を行ったりしている生徒が多い（将来への意識が乏しく就業観が未発達）
-----	---

検証結果⑧	・「社会人として早く自立したいから」や「自分の興味・関心に合ったことを勉強したいから」などの回答が多いが、「なんとなく」など、目的意識や主体的意思に欠けた理由を挙げる生徒が見られた
-------	--

アンケート結果	<p>高校生 設問 10「就職を希望する理由」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>理由</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>社会人として早く自立したいから</td><td>51.4</td></tr> <tr><td>勉強するより仕事をする方が向いているから</td><td>32.8</td></tr> <tr><td>若いうちから専門的な技術を身につけたいから</td><td>25.5</td></tr> <tr><td>進学したい学校がないから</td><td>17.9</td></tr> <tr><td>進学するには学習面で不安があるから</td><td>13.4</td></tr> <tr><td>保護者や家族がすすめるから</td><td>12.2</td></tr> <tr><td>働かなければならない事情があるから</td><td>11.7</td></tr> <tr><td><b>特になんとか働きたい</b></td><td><b>7.1</b></td></tr> <tr><td>先生がすすめるから</td><td>1.4</td></tr> <tr><td>友人や先輩がすすめるから</td><td>1.1</td></tr> <tr><td>その他</td><td>4.9</td></tr> </tbody> </table> <p>n=6,500</p>	理由	割合 (%)	社会人として早く自立したいから	51.4	勉強するより仕事をする方が向いているから	32.8	若いうちから専門的な技術を身につけたいから	25.5	進学したい学校がないから	17.9	進学するには学習面で不安があるから	13.4	保護者や家族がすすめるから	12.2	働かなければならない事情があるから	11.7	<b>特になんとか働きたい</b>	<b>7.1</b>	先生がすすめるから	1.4	友人や先輩がすすめるから	1.1	その他	4.9							
	理由	割合 (%)																														
社会人として早く自立したいから	51.4																															
勉強するより仕事をする方が向いているから	32.8																															
若いうちから専門的な技術を身につけたいから	25.5																															
進学したい学校がないから	17.9																															
進学するには学習面で不安があるから	13.4																															
保護者や家族がすすめるから	12.2																															
働かなければならない事情があるから	11.7																															
<b>特になんとか働きたい</b>	<b>7.1</b>																															
先生がすすめるから	1.4																															
友人や先輩がすすめるから	1.1																															
その他	4.9																															
<p>高校生 設問 12「上級学校（学科）への進学を希望する理由」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>理由</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>自分の興味・関心に合ったことを勉強したいから</td><td>73.4</td></tr> <tr><td>将来の職業に役立つ専門的な知識・技能・資格の取得</td><td>50.0</td></tr> <tr><td>将来の目標を見つけられそうだから</td><td>30.5</td></tr> <tr><td>学生生活を楽しまたいから</td><td>14.6</td></tr> <tr><td>保護者や家族がすすめるから</td><td>9.2</td></tr> <tr><td>その分野に進むと卒業後の就職が有利だから</td><td>5.7</td></tr> <tr><td>部活動（サークル活動など）がしたいから</td><td>5.0</td></tr> <tr><td>将来の職業の希望が決まっておらず幅広く勉強したいから</td><td>4.2</td></tr> <tr><td>大学院などの上級学校に進みたいから</td><td>3.9</td></tr> <tr><td><b>特になんとか進学したい</b></td><td><b>3.4</b></td></tr> <tr><td>学校の先生がすすめるから</td><td>1.9</td></tr> <tr><td>進学希望先の受験科目に苦手な科目がないから</td><td>1.5</td></tr> <tr><td>塾や予備校、家庭教師の先生がすすめるから</td><td>1.5</td></tr> <tr><td>友人や先輩がすすめるから</td><td>1.3</td></tr> <tr><td>その他</td><td>0.8</td></tr> </tbody> </table> <p>n=47,234</p> <p>「特になんとか働きたい/進学したい」という回答のほか、「進学したい学校がないから」、「学生生活を楽しまたいから」、「保護者・家族・先生・友人・先輩がすすめるから」など、目的意識や主体的意思のない理由を回答した生徒が見られた。</p>	理由	割合 (%)	自分の興味・関心に合ったことを勉強したいから	73.4	将来の職業に役立つ専門的な知識・技能・資格の取得	50.0	将来の目標を見つけられそうだから	30.5	学生生活を楽しまたいから	14.6	保護者や家族がすすめるから	9.2	その分野に進むと卒業後の就職が有利だから	5.7	部活動（サークル活動など）がしたいから	5.0	将来の職業の希望が決まっておらず幅広く勉強したいから	4.2	大学院などの上級学校に進みたいから	3.9	<b>特になんとか進学したい</b>	<b>3.4</b>	学校の先生がすすめるから	1.9	進学希望先の受験科目に苦手な科目がないから	1.5	塾や予備校、家庭教師の先生がすすめるから	1.5	友人や先輩がすすめるから	1.3	その他	0.8
理由	割合 (%)																															
自分の興味・関心に合ったことを勉強したいから	73.4																															
将来の職業に役立つ専門的な知識・技能・資格の取得	50.0																															
将来の目標を見つけられそうだから	30.5																															
学生生活を楽しまたいから	14.6																															
保護者や家族がすすめるから	9.2																															
その分野に進むと卒業後の就職が有利だから	5.7																															
部活動（サークル活動など）がしたいから	5.0																															
将来の職業の希望が決まっておらず幅広く勉強したいから	4.2																															
大学院などの上級学校に進みたいから	3.9																															
<b>特になんとか進学したい</b>	<b>3.4</b>																															
学校の先生がすすめるから	1.9																															
進学希望先の受験科目に苦手な科目がないから	1.5																															
塾や予備校、家庭教師の先生がすすめるから	1.5																															
友人や先輩がすすめるから	1.3																															
その他	0.8																															

<p>インタビュー 結果</p>	<p><b>企業インタビュー 抜粋</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高卒者に共通して言えることとして、親や先生に当社を勧められたから就職したのであって、必ずしも本人にその意思があるわけではない、というケースが多い。恐らく高校を卒業した時点では「自分が何をしたいのか」が分かっていない（考えていない）人がほとんどなのではないか。</li> <li>・高卒者には「自分が何をしたいのか」を自分の頭でよく考えてほしい。親や学校の先生に言われたから就職するのではなく、就職することによって何を実現させていきたいのかを自分の中ではっきりさせてほしいし、キャリア教育においても小手先のノウハウではなく、こういった根幹の部分を中心に教育してほしい。</li> </ul> </div> <p><b>社会人インタビュー 抜粋</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校3年生になり就職活動の時期が近づいたから、あまり考えないまま業種を決めた。働きたい業種や仕事は特になく、就職活動を早く終わらせたかった。</li> <li>・就職先を決める時期になり、求人票のなかから仕事の内容ではなく初任給が高い企業（電気工事業）を選んで応募した。</li> </ul> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>企業・社会人のそれぞれへのインタビューからも、「なんとなく」就職している高卒者が少なくないことが窺われる。</p>
----------------------	--

< 仮説⑧の原因分析 >

A. 「基礎的・汎用的能力」の未発達

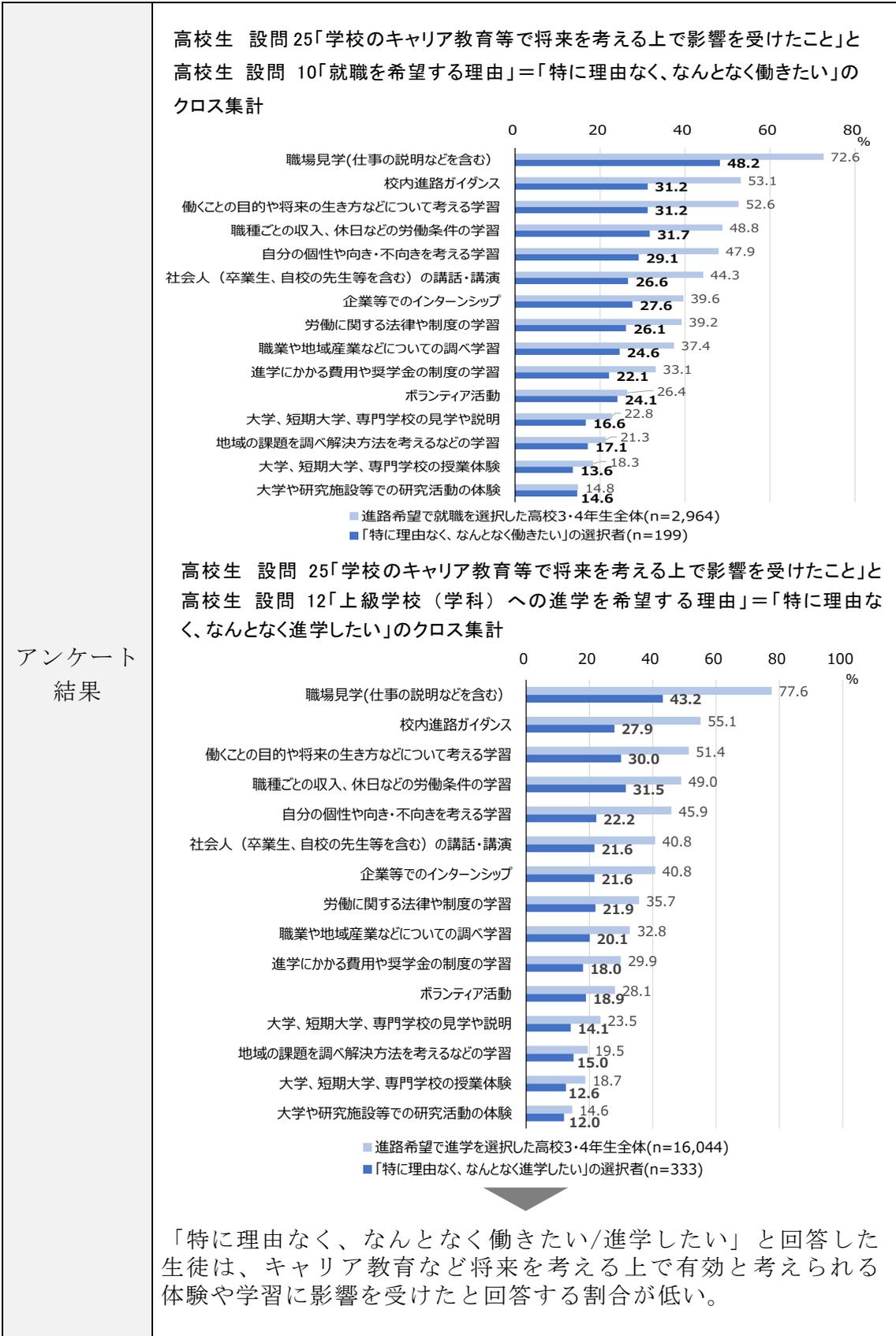


B. 仮説③「自分に合った仕事が見つからない」の原因 B と同様

仮説③「自分に合った仕事が見つからない」の原因 B

B. 自己分析の機会の提供不足

### C. 職業・進学先を知る機会の活用が不十分



仮説⑨	「学校」から「社会」への急激な変化についていけない（「生徒」から「社会人」への準備不足）
-----	--

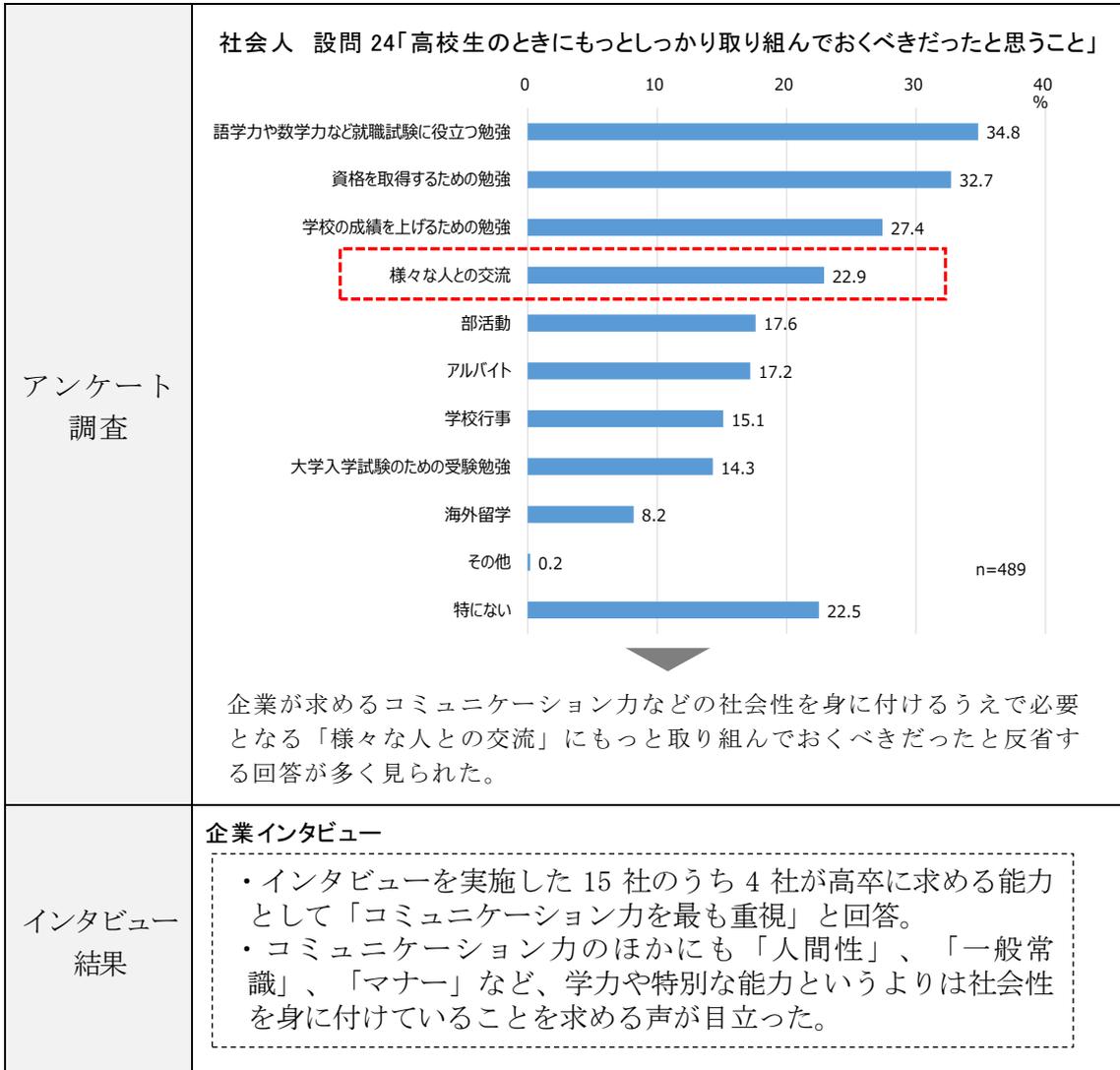
検証結果⑨	・企業側の課題としては「求人に対する応募が少ない」が圧倒的だが、「就職先の企業が求めるレベルに達していない新卒社員」や、「入社後の環境変化に適応できていない新卒社員」も見られる
-------	--

アンケート結果	<p>企業 設問3「新卒高卒者の採用に当たっての課題」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>課題</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>求人に対する応募が少ない</td><td>80.5</td></tr> <tr><td>他社との人材獲得競争が激しい</td><td>38.2</td></tr> <tr><td>学生と直接話ができる機会が少ない</td><td>25.3</td></tr> <tr><td>採用してもすぐにやめてしまう</td><td>21.5</td></tr> <tr><td>求めるレベルの人材が採用できない</td><td>19.9</td></tr> <tr><td>求める人材が学校から推薦されない</td><td>19.7</td></tr> <tr><td>効果的な採用の方法がわからない</td><td>17.2</td></tr> <tr><td>自社の魅力を伝える方法が少ない</td><td>16.7</td></tr> <tr><td>採用活動する時間的余裕がない</td><td>12.2</td></tr> <tr><td>会社や仕事になじめない人が多い</td><td>10.2</td></tr> <tr><td>採用にかかる予算が足りない</td><td>6.1</td></tr> <tr><td>先生との関係づくりが負担になる</td><td>5.9</td></tr> <tr><td>面接の回数・質問内容が限定される</td><td>3.2</td></tr> <tr><td>その他</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>特になし</td><td>3.4</td></tr> </tbody> </table> <p>n=442</p> <p>新卒高卒者の採用における課題として、約2割の企業が人材のレベルが求める水準に達していないことを挙げているほか、「会社や仕事になじめない人が多い」との回答も見られ、入社後の環境変化に適応できていない人が相応にいることが窺える。</p>	課題	割合 (%)	求人に対する応募が少ない	80.5	他社との人材獲得競争が激しい	38.2	学生と直接話ができる機会が少ない	25.3	採用してもすぐにやめてしまう	21.5	求めるレベルの人材が採用できない	19.9	求める人材が学校から推薦されない	19.7	効果的な採用の方法がわからない	17.2	自社の魅力を伝える方法が少ない	16.7	採用活動する時間的余裕がない	12.2	会社や仕事になじめない人が多い	10.2	採用にかかる予算が足りない	6.1	先生との関係づくりが負担になる	5.9	面接の回数・質問内容が限定される	3.2	その他	2.0	特になし	3.4
課題	割合 (%)																																
求人に対する応募が少ない	80.5																																
他社との人材獲得競争が激しい	38.2																																
学生と直接話ができる機会が少ない	25.3																																
採用してもすぐにやめてしまう	21.5																																
求めるレベルの人材が採用できない	19.9																																
求める人材が学校から推薦されない	19.7																																
効果的な採用の方法がわからない	17.2																																
自社の魅力を伝える方法が少ない	16.7																																
採用活動する時間的余裕がない	12.2																																
会社や仕事になじめない人が多い	10.2																																
採用にかかる予算が足りない	6.1																																
先生との関係づくりが負担になる	5.9																																
面接の回数・質問内容が限定される	3.2																																
その他	2.0																																
特になし	3.4																																

インタビュー結果	<p>企業インタビュー 抜粋</p> <p>「何をしたいのか」が分からず、企業のネームバリューや入社直後の仕事内容、初任給などといった情報のみで判断して就職してしまうために「思っていたイメージと違う」であったり、上司や顧客から少し注意されたり等のちょっとしたトラブルがあっただけで直ぐに辞めてしまう。</p>
----------	--

<仮説⑨の原因分析>

A. 企業が新入社員に求める能力（特にコミュニケーション力）の習得が不十分



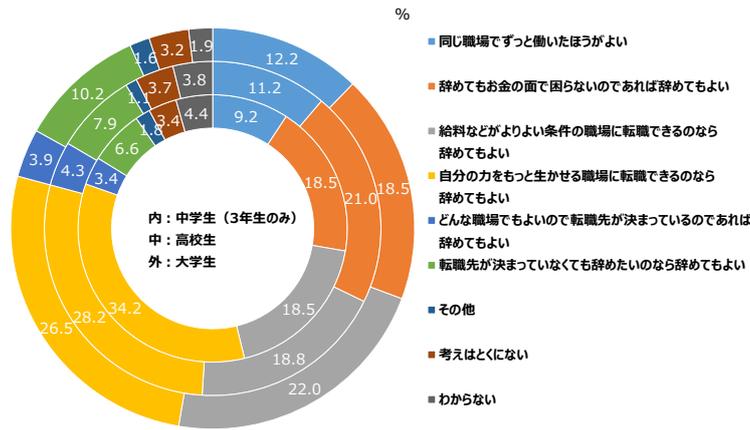
## B. 社会人に向けた準備に係る学校の支援が不十分



仮説⑩	就業意識の変化（転職市場の活性化）
-----	-------------------

検証結果⑩	・中学生、高校生、大学生のいずれにおいても転職に対して肯定的な回答が多い
-------	--------------------------------------

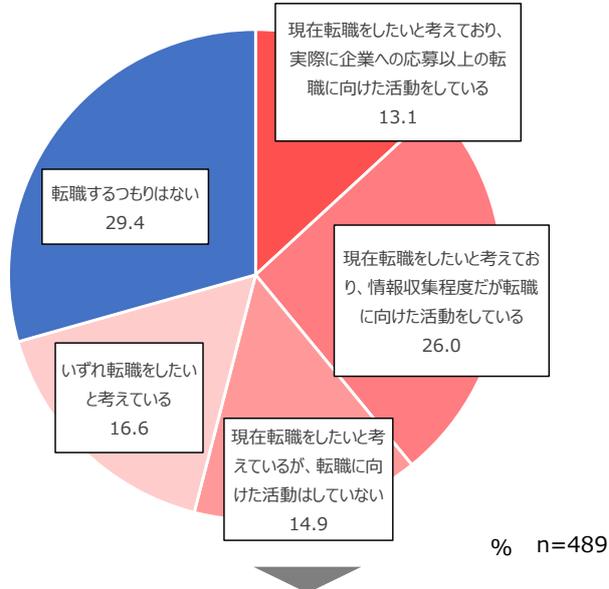
中学生 設問 14、高校生 設問 20、大学生 設問 16「退職・転職に関する価値観」



アンケート結果

「同じ職場ですっと働いたほうがよい」は中学生、高校生、大学生のいずれにおいても約 1 割にとどまり、転職に対する肯定的な回答が多く見られた。特に「自分の力をもっと生かせる職場」への転職を支持する回答が目立った。

社会人 設問 16「退職・転職に関する価値観」



社会人アンケートでは転職を考えている人が約 7 割に達した。

<仮説⑩の原因分析>

A. 県内企業のキャリア採用拡大による転職機会の増加

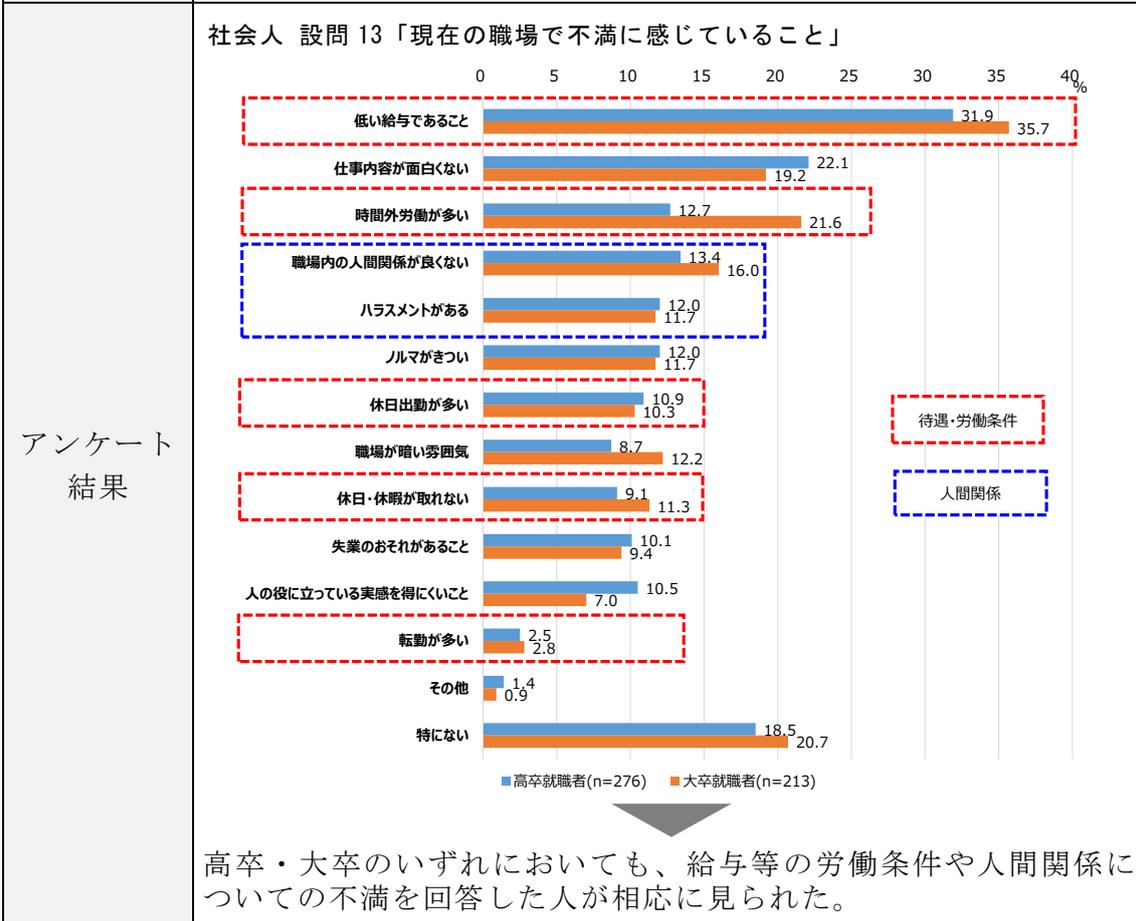
インタビュー 結果	企業インタビュー 抜粋		
	業種	従業員数	採用状況
	建設業	24人	高卒の採用不足を大卒とキャリア採用でカバー
	ガス漏れ対応	50人	
	建設・空港運営支援・産廃処理	394人	高卒が採用計画を下回り、キャリア採用でカバー
	イベント開催支援	26人	求人票にほとんど応募なく、採用はキャリア採用中心
害虫・害獣駆除	18人		
<p>新卒高卒者を計画通り採用できていない企業の多くがキャリア採用で不足分をカバーしており、新卒採用の競争激化にともないキャリア採用が広がっている。</p>			

B. 転職支援機関・ツールの普及

インタビュー 結果	社会人インタビュー 抜粋
	<p>・転職サイトの閲覧や就職エージェントに3か月に1回面談するなど、情報収集は続けている。より良い条件があれば転職したい。</p>
<p>インターネットサイトなど、転職情報を手軽に入手できる手段が充実したことにより、以前よりも転職を身近に感じる環境となっている。</p>	

仮説①	就職者が思っていたより就業環境が良くない場合がある（人間関係、給与、福利厚生）
-----	---

検証結果①	・給与や時間外労働・休暇取得などの労働条件や人間関係について不満を感じている社会人が一定数見られた
-------	---



インタビュー結果	<p data-bbox="416 1413 1361 1456"><b>企業インタビュー 抜粋</b></p> <p data-bbox="416 1456 1361 1568">・離職の最大の理由は「やりたい仕事ではない」つまり、就職する前にイメージした仕事内容と実際の作業内容とのギャップが大きいこと。</p> <p data-bbox="416 1568 1361 1601"><b>社会人インタビュー 抜粋</b></p> <p data-bbox="416 1601 1361 1691">・工場勤務だが人手不足で有給休暇が取得しづらい。これは求人票からはわからなかった。</p> <p data-bbox="416 1691 1361 1780">・会社説明会では土日は休みと聞いていたが、実際は休日出勤が多い。</p> <p data-bbox="416 1825 1361 1942">企業、社会人の双方の立場のコメントから、就職前のイメージと入社後の実際の仕事内容・労働条件とのギャップの大きさが従業員の不満、離職につながっていることが窺える。</p>
----------	--

<仮説①の原因分析>

- A. 仮説⑤「生徒に、職場見学やインターンシップ等、業務内容等について知ることのできる機会の提供を十分にできていない」の原因と同様

仮説⑤「生徒に、職場見学やインターンシップ等、業務内容等について知ることのできる機会の提供を十分にできていない」の原因

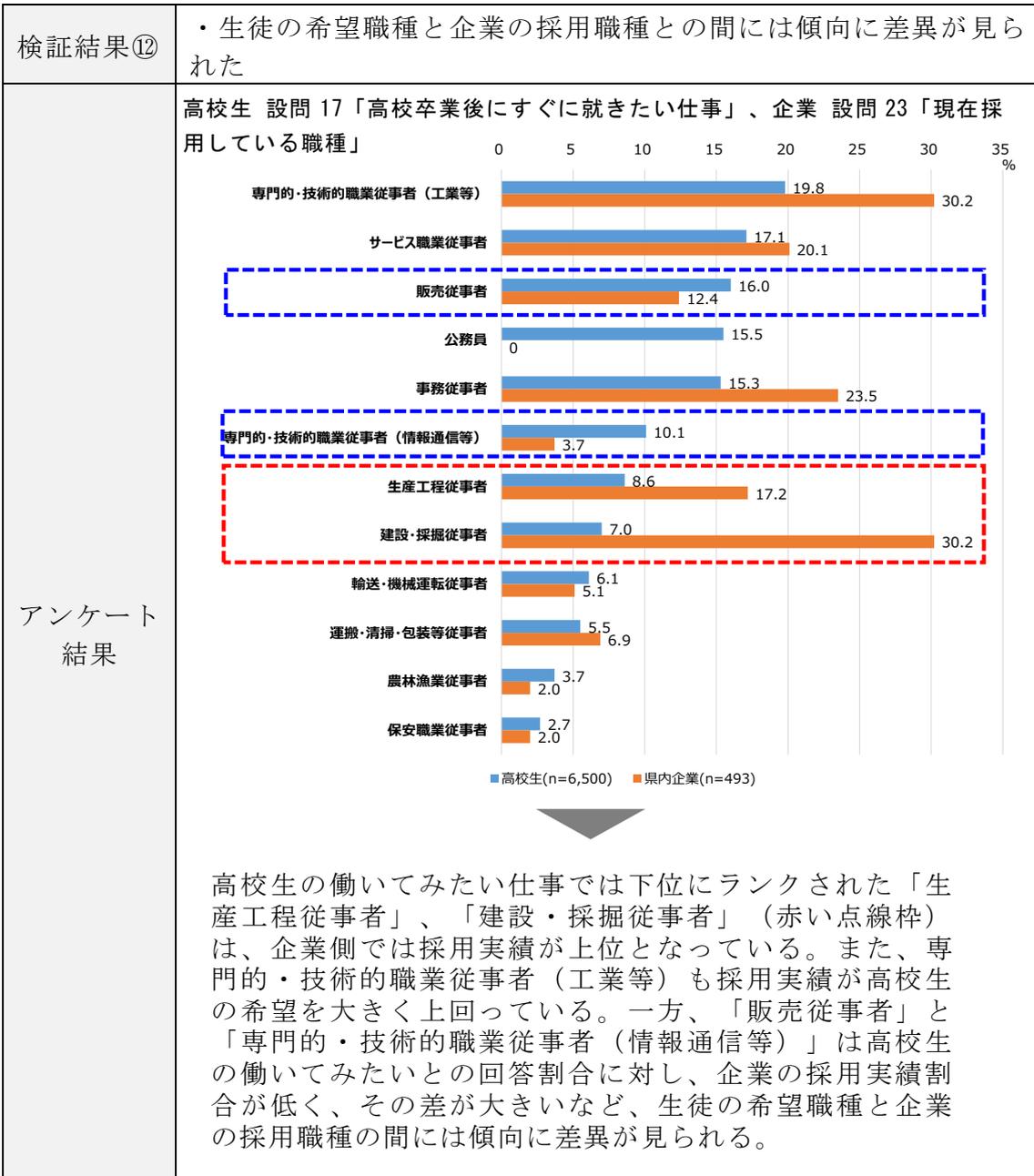
- A：学校側と地元企業の連携が十分に図れていない  
B：生徒に会社情報を直接伝える機会が少ない

- B. 仮説⑥「高卒就職希望者に県内企業の業務内容などの詳細が十分に知られていない」の原因と同様

仮説⑥「高卒就職希望者に県内企業の業務内容などの詳細が十分に知られていない」の原因

- 企業側の高卒就職希望者に対する直接的なアプローチが不十分

仮説⑫ 生徒の希望が多い業種・職種について採用が少ない



仮説⑬	生徒の地元企業の認知度が低い
-----	----------------

検証結果⑬	<p>・ 県外で働いている（働きたい）理由として「都会の方が楽しそう」が最上位だが、「千葉県内にどんな企業があるのか知らない」ことや、「千葉県内に志望する企業や職種がない」ことを挙げた人が一定数見られたほか、効果的な PR ができていないという企業の声も聞かれた</p>
-------	---

アンケート結果	<p>社会人 設問 20 「県外で就業した理由」</p> <p>高校生 設問 23 「県外で就業したい理由」</p> <p>県外で働いている県内高校出身者のうち、7.6%、および県外で働くことを希望している高校生の 10.3%がその理由として「千葉県内にどんな企業があるのか知らない」ことを挙げている。「千葉県内に志望する企業や職種がない」という回答も一定数見られる。</p>
	インタビュー結果

<仮説⑬の原因分析>

- A. 仮説⑤「生徒に、職場見学やインターンシップ等、業務内容等について知ることのできる機会の提供を十分にできていない」の原因と同様

仮説⑤「生徒に、職場見学やインターンシップ等、業務内容等について知ることのできる機会の提供を十分にできていない」の原因

A：学校側と地元企業の連携が十分に図れていない

B：生徒に会社情報を直接伝える機会が少ない

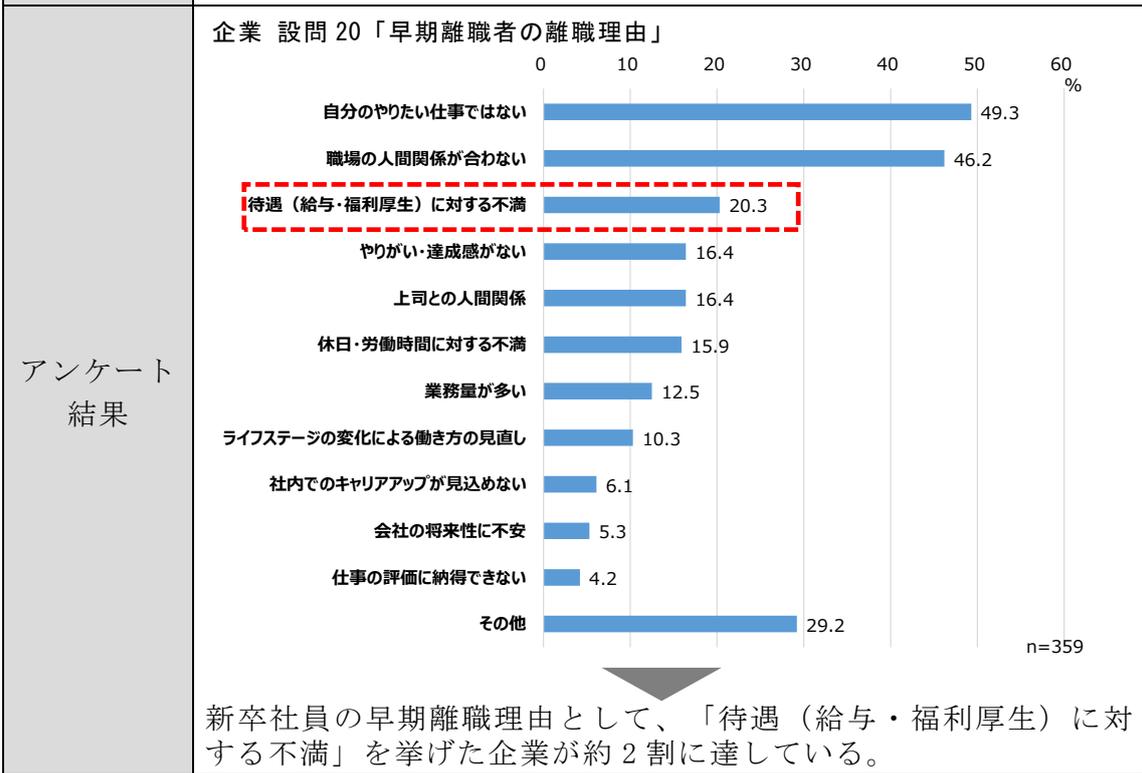
- B. 仮説⑥「高卒就職希望者に県内企業の業務内容などの詳細が十分に知られていない」の原因と同様

仮説⑥「高卒就職希望者に県内企業の業務内容などの詳細が十分に知られていない」の原因

企業側の高卒就職希望者に対する直接的なアプローチが不十分

仮説⑭ 高卒者と大卒者の待遇（給与・職種）の違いを理由とした離職がある

検証結果⑭  
 ・企業アンケートでは仕事内容や人間関係を早期離職の原因として挙げる先が多かった。また、一定数の早期離職者が待遇を理由として離職していること、高卒と大卒の職種を分けている企業の一部に見られることがわかったが、待遇の差異が離職の主な原因となっているかどうかは、今回の調査では明確にならなかった



企業インタビュー 抜粋

業種	従業員数	高卒・大卒の職種について
建設・空港運営支援・産廃処理	394 人	事務職は大卒から採用している。
建設業	145 人	営業職は大卒のみで、高卒は営業職を除く全ての職種で募集。

高卒が就く職種と大卒が就く職種を明確に分けている企業が見られる。

仮説⑮	就職者が相談できる場所がない
-----	----------------

検証結果⑮	<p>・悩みを相談できる相手がいないと回答した人は、特に現在の職場の勤続意向が弱い人に多く見られた</p>																																																																								
アンケート結果	<p>社会人 設問 15「現在の職場の勤続意向」と設問 17「悩みを相談できる存在」＝「相談できる相手はいない」のクロス集計</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>勤務先の上 司、先輩</th> <th>家族、 親族</th> <th>勤務先 の同僚</th> <th>勤務先 以外の 知人・友人</th> <th>勤務先 の人事 担当者</th> <th>ハ ロ ワ ー ク の 相 談 員</th> <th>そ の 他</th> <th>相 談 で き る 相 手 は い ない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体</td> <td>26.6</td> <td>42.3</td> <td>25.6</td> <td>31.1</td> <td>5.9</td> <td>2.0</td> <td>0.2</td> <td>21.1</td> </tr> <tr> <td>なるべく長く働きたい</td> <td>40.0</td> <td>48.8</td> <td>29.4</td> <td>29.4</td> <td>6.3</td> <td>1.3</td> <td>0.0</td> <td>16.9</td> </tr> <tr> <td>今後10年くらいは働きたい</td> <td>15.1</td> <td>35.8</td> <td>37.7</td> <td>30.2</td> <td>7.5</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>7.5</td> </tr> <tr> <td>今後5年くらいは働きたい</td> <td>20.8</td> <td>33.3</td> <td>33.3</td> <td>41.7</td> <td>9.7</td> <td>1.4</td> <td>0.0</td> <td>11.1</td> </tr> <tr> <td>今後3年くらいは働きたい</td> <td>26.1</td> <td>52.2</td> <td>29.0</td> <td>49.3</td> <td>10.1</td> <td>4.3</td> <td>0.0</td> <td>4.3</td> </tr> <tr> <td>近いうちに辞めたい（1年以内）</td> <td>26.9</td> <td>50.0</td> <td>15.4</td> <td>26.9</td> <td>1.9</td> <td>1.9</td> <td>0.0</td> <td>23.1</td> </tr> <tr> <td>わからない・なんとも言えない</td> <td>13.3</td> <td>28.9</td> <td>7.2</td> <td>13.3</td> <td>0.0</td> <td>3.6</td> <td>1.2</td> <td>59.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>▼</p> <p>・現在の職場で「働きたい」と回答した人と比較して、「近いうちに辞めたい」および「わからない・なんとも言えない」と回答した人は「相談できる相手はいない」割合が高い。</p> <p>・一方、「なるべく長く働きたい」と回答した人は悩みを相談する相手として「勤務先の上司・先輩」を挙げた割合が高い。</p>		勤務先の上 司、先輩	家族、 親族	勤務先 の同僚	勤務先 以外の 知人・友人	勤務先 の人事 担当者	ハ ロ ワ ー ク の 相 談 員	そ の 他	相 談 で き る 相 手 は い ない	全体	26.6	42.3	25.6	31.1	5.9	2.0	0.2	21.1	なるべく長く働きたい	40.0	48.8	29.4	29.4	6.3	1.3	0.0	16.9	今後10年くらいは働きたい	15.1	35.8	37.7	30.2	7.5	0.0	0.0	7.5	今後5年くらいは働きたい	20.8	33.3	33.3	41.7	9.7	1.4	0.0	11.1	今後3年くらいは働きたい	26.1	52.2	29.0	49.3	10.1	4.3	0.0	4.3	近いうちに辞めたい（1年以内）	26.9	50.0	15.4	26.9	1.9	1.9	0.0	23.1	わからない・なんとも言えない	13.3	28.9	7.2	13.3	0.0	3.6	1.2	59.0
	勤務先の上 司、先輩	家族、 親族	勤務先 の同僚	勤務先 以外の 知人・友人	勤務先 の人事 担当者	ハ ロ ワ ー ク の 相 談 員	そ の 他	相 談 で き る 相 手 は い ない																																																																	
全体	26.6	42.3	25.6	31.1	5.9	2.0	0.2	21.1																																																																	
なるべく長く働きたい	40.0	48.8	29.4	29.4	6.3	1.3	0.0	16.9																																																																	
今後10年くらいは働きたい	15.1	35.8	37.7	30.2	7.5	0.0	0.0	7.5																																																																	
今後5年くらいは働きたい	20.8	33.3	33.3	41.7	9.7	1.4	0.0	11.1																																																																	
今後3年くらいは働きたい	26.1	52.2	29.0	49.3	10.1	4.3	0.0	4.3																																																																	
近いうちに辞めたい（1年以内）	26.9	50.0	15.4	26.9	1.9	1.9	0.0	23.1																																																																	
わからない・なんとも言えない	13.3	28.9	7.2	13.3	0.0	3.6	1.2	59.0																																																																	
インタビュー結果	<p><b>企業インタビュー 抜粋</b></p> <p>・社員とのコミュニケーションがうまくとれずに仕事に対する自信を失い、辞めかけた新卒社員がいる。悩みを相談できる人がいないことに悩む新人が少なくなく、孤立させないことが重要。</p> <p>▼</p> <p>悩みを相談できる相手がいないことに悩む人は新人に多く、そのことが離職の原因になりうるとの指摘が聞かれた。</p>																																																																								

### 3. 仮説検証のまとめ

---

○以上のとおり、①高等学校卒業時まで、子供たちに十分なキャリア意識が育まれていない、②産業界が求める人材を十分に育成できていない、という千葉県のキャリア教育の課題として考えられる2つの可能性について、15の仮説を立て、調査結果を基に検証を行った。以下は、仮説検証のまとめである。

#### ○仮説①「周囲のすすめや、なんとなくといった理由で普通科高校への進学を希望する中学生が多い」

進学理由として普通科進学を目指す生徒は「上級学校に進学したいから」が最も多く、専門学科を目指す生徒は「将来役立つ知識・技能や資格を取得したいから」が最も多かった。一方、「周囲のすすめ」や「なんとなく」との回答も一定程度あり、その割合は、専門学科に比べ、普通科に進学意向のある生徒の方が高かった。

#### ○仮説②「周囲のすすめや、なんとなくといった理由で文系の大学への進学を希望する高校生が多い」

大学への進学理由について、「周囲のすすめ」や「なんとなく」といった理由は、文系志望者と理系志望者で大きな差は見られなかった。しかし、文系志望者では、将来の目標を探す目的や大学生活を楽しむ目的で進学したいと回答した高校生の比率が、理系志望者よりもやや高かった。

#### ○仮説③「自分に合った仕事が見つからない（自己分析が不十分）」

「自分がどのような職業に向いているかわかっている」に「そう思う」と回答した高校生の割合は、15.4%にとどまった。また、就職希望の生徒が就業を希望する上で困っていることとして「やりたい仕事が見つからない」「自分がどのような職業に向いているのかわからない」が上位となるなど、生徒自身が就きたい仕事を理解していない傾向が見られた。さらに、就職希望者がいる高校では、就職を支援する上での課題として、「生徒が自己分析をする機会を十分に提供できていない」という回答が3割に上った。

#### ○仮説④「生徒に、自己分析や社会人に必要な能力を向上させるための学びや、社会や産業の理解を促す機会の提供が十分にできていない」

学校のキャリア教育等で将来を考える上で影響を受けたことについて、「自分の個性や向き不向きを考える学習」「職業や地域産業についての調べ学習」に対し「そのような学習や活動はなかった」との回答が一定程度見られた。また、就職希望者がいる高校では、就職を支援する上での課題として、「生徒が社会情勢を知る機会を十分に提供できていない」の回答が最も多かった。

○仮説⑤「生徒に、職場見学やインターンシップ等、業務内容等について知ることのできる機会の提供を十分にできていない」

学校のキャリア教育等で将来を考える上で影響を受けたことについて、「職場見学」は25%、「インターンシップ」については半数以上が「そのような学習や活動はなかった」と回答した。また、学校アンケートにおいても「職場見学」と「インターンシップ」が行っていない取組の中で上位となった。県内企業からは、インターンシップの課題として、「学校からの依頼がない」の回答が半数近くあり最上位となった。

○仮説⑥「高卒就職希望者に県内企業の業務内容などの詳細が十分に知られていない」

就職を希望する上で困っていることとして、「やりたい仕事かわからない」「どのような職業に向いているのかわからない」と回答した高校生が多いが、「求人票を見ても具体的な仕事がイメージできない」の回答も一定程度見られた。また、県内企業では、「求人票を出した学校への訪問」など間接的にアプローチを行う企業が多く、「合同企業説明会」や「インターンシップ」など直接的にアプローチを行っている企業は少ないことが判明した。

○仮説⑦「仕事をするまでに生徒が身に付けたい能力、学校が生徒に身に付けさせたい能力、県内企業が高卒新入社員に身に付けておいてほしい能力の3者にギャップがある」

「生徒が身に付けたい能力」「学校が生徒に身に付けさせたい能力」「県内企業が身に付けておいてほしい能力」全てにおいて、「一般常識」「コミュニケーション能力」が1位、2位となっており、求める能力については大きなずれは認められなかった。

○仮説⑧「なんとなく進学を希望したり、就職活動を行ったりしている生徒が多い（将来への意識が乏しく就業観が未発達）」

高校生が就職・進学を希望する理由として、「社会人として早く自立したいから」や「自分の興味・関心に合ったことを勉強したいから」の回答が多いが、「特に理由なく、なんとなく」という回答のほか、「進学したい学校がないから」、「学生生活を楽しみたいから」など、目的意識や主体的意思のない理由を回答した生徒も一定程度見られた。

○仮説⑨「『学校』から『社会』への急激な変化についていけない（『生徒』から『社会人』への準備不足）」

県内企業アンケートでは、新卒高卒者の採用における課題として、約2割の企業が人材のレベルが求める水準に達していないことを挙げているほか、「会社や仕事になじめない人が多い」との回答も約1割見られ、入社後の環境変化に適応できていない人が相応にいることが窺えた。また、「就職を支援する上での課題」で、

「生徒が社会について知る機会」や「社会人としての心構えや能力向上の機会」を十分に提供できていないことを挙げる高校が多く見られた。

#### ○仮説⑩「就業意識の変化（転職市場の活性化）」

退職・転職に関する価値観について、中学生、高校生、大学生のいずれにおいても「同じ職場ですっと働いた方がよい」は約 1 割にとどまり、転職に対して肯定的な回答が多かった。また、社会人アンケートでは、転職を考えている人が約 7 割に達した。企業インタビューからは、転職情報を手軽に入手できる手段が充実したことにより、以前よりも転職を身近に感じる環境となっているという声が聞かれた。

#### ○仮説⑪「就職者が思っていたより就業環境が良くない場合がある（人間関係、給与、福利厚生）」

社会人の現在の職場での不満について、高卒・大卒のいずれにおいても、給与が低いことが 3 割を超え最多であった。次いで、高卒では「仕事が面白くない」、大卒では「時間外労働」となり、いずれも 2 割以上の回答があった。他にも労働条件や人間関係について不満に感じている社会人が一定程度見られた。

#### ○仮説⑫「生徒の希望が多い業種・職種について採用が少ない」

高校生が卒業後すぐに就きたい仕事で下位にランクされた「生産工程従事者」、「建設・採掘従事者」は、企業側では採用実績割合が最も高く、「専門的・技術的職業従事者（工業等）」も採用実績が高校生の希望を大きく上回った。一方、「販売従事者」「専門的・技術的職業従事者（情報通信等）」は高校生の希望に対し採用実績割合が低く、生徒の希望職種と企業の採用職種との間には傾向に差異が見られた。

#### ○仮説⑬「生徒の地元企業の認知度が低い」

「県外で働いている（社会人）／働きたい（高校生）」理由として「都会の方が楽しそう」が最上位だが、「千葉県内にどんな企業があるのか知らない」ことや、「千葉県内に志望する企業や職種がない」ことを挙げた人が一定程度見られたほか、企業インタビューからは、効果的なPRができていないことを自覚している企業の声も聞かれた。

#### ○仮説⑭「高卒者と大卒者の待遇（給与・職種）の違いを理由とした離職がある」

企業アンケートでは、早期離職者の離職理由について、仕事内容や人間関係を挙げた企業が多かったが、「待遇に対する不満」を挙げた企業も 2 割程度あった。また、企業インタビューから、高卒者と大卒者の職種を分けている企業が一部に見られることがわかったが、待遇の差異が離職の主な原因となっているかどうかは、明確にはならなかった。

#### ○仮説⑮「就職者が相談できる場所がない」

「悩みを相談できる相手がない」と回答した社会人は、特に現在の職場の勤続意向が弱い人に多く見られた。また、企業インタビューでは、悩みを相談できる相手がないことに悩む人は新人に多く、そのことが離職の原因になりうるとの指摘が聞かれた。

○以上から、「高等学校卒業時まで、子供たちに十分なキャリア意識が育まれていないのではないか」「産業界が求める人材を十分に育成できていないのではないか」という本県のキャリア教育の課題を分析するための一定の資料を得ることができた。

○「高等学校卒業時まで、子供たちに十分なキャリア意識が育まれていないのではないか」という課題については、仮説①、②、③、⑧等において、自己分析や将来の展望、進路の目的意識が十分でない生徒が一定数いることがわかり、今後のキャリア教育の方策を探る手掛かりを得た。

○「産業界が求める人材を十分に育成できていないのではないか」という課題については、仮説⑦において、生徒と学校、企業で仕事をするまでに身に付けておくべき力についてのギャップは少ないことがわかった。しかし、求められる人材を十分に育成できているかという点については、キャリア意識の形成とも密接な関わりがあるため、課題があるものと考えられる。さらに、仮説⑫で見たように、生徒の希望職種と企業の採用職種との間には傾向に差異があること、また、P68の「新卒高卒者の採用に当たっての課題」及びP70の「新卒大卒者等の採用に当たっての課題」で見たように、「求めるレベルの人材が採用できない」こと、「求める人材が学校から推薦されない」ことを挙げている企業が一定数いることにも留意する必要がある。

○また、仮説⑤や⑥の原因分析などから、企業側では、就職希望者に業務内容等が十分に伝わっていないこと、自社の魅力を伝える機会や方法が少ないことを課題と感じている企業があり、それが就職前及び就職後のキャリア意識や就業意欲に関係するとも考えられることから、改善が必要と考えられる。